

【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	近畿財務局長
【提出日】	平成25年5月17日
【事業年度】	第50期（自平成24年2月21日至平成25年2月20日）
【会社名】	株式会社瑞光
【英訳名】	ZUIKO CORPORATION
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 和田 昇
【本店の所在の場所】	大阪府摂津市南別府町15番21号
【電話番号】	(06)6340 - 2215（代表）
【事務連絡者氏名】	執行役員管理部長 和田 晃司
【最寄りの連絡場所】	大阪府摂津市南別府町15番21号
【電話番号】	(06)6340 - 2215（代表）
【事務連絡者氏名】	執行役員管理部長 和田 晃司
【縦覧に供する場所】	株式会社大阪証券取引所 （大阪市中央区北浜一丁目8番16号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次 決算年月	第46期 平成21年 2月	第47期 平成22年 2月	第48期 平成23年 2月	第49期 平成24年 2月	第50期 平成25年 2月
売上高 (千円)	9,166,154	9,024,123	12,017,662	16,288,571	22,116,140
経常利益 (千円)	1,120,717	457,876	1,619,492	1,798,882	3,441,078
当期純利益 (千円)	494,330	487,087	1,031,969	1,236,732	2,315,221
包括利益 (千円)	-	-	-	1,232,183	2,768,485
純資産額 (千円)	11,881,935	12,272,220	12,953,956	13,989,058	16,494,640
総資産額 (千円)	17,118,136	16,049,565	18,396,298	22,615,920	28,429,014
1株当たり純資産額 (円)	1,755.98	1,813.66	1,972.31	2,129.92	2,511.44
1株当たり当期純利益金額 (円)	73.05	71.98	155.55	188.30	352.51
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	69.4	76.5	70.4	61.9	58.0
自己資本利益率 (%)	4.2	4.0	8.2	9.2	15.2
株価収益率 (倍)	8.5	9.6	8.8	8.8	11.3
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	1,310,526	711,682	2,623,870	434,432	2,228,196
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	771,017	1,192,359	1,776,670	2,244,104	810,887
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	203,052	235,331	233,806	204,764	272,561
現金及び現金同等物の 期末残高 (千円)	1,637,163	1,881,569	2,411,260	3,982,963	7,120,612
従業員数 (人) (外、平均臨時雇用者数)	279 (14)	288 (16)	324 (21)	399 (28)	501 (29)

(注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(2) 提出会社の経営指標等

回次 決算年月	第46期 平成21年2月	第47期 平成22年2月	第48期 平成23年2月	第49期 平成24年2月	第50期 平成25年2月
売上高 (千円)	8,856,087	8,074,428	11,060,564	14,238,785	17,811,067
経常利益 (千円)	1,232,440	222,392	1,273,279	1,132,419	2,206,346
当期純利益 (千円)	385,109	431,743	695,199	651,513	1,288,448
資本金 (千円)	1,888,510	1,888,510	1,888,510	1,888,510	1,888,510
発行済株式総数 (千株)	7,200	7,200	7,200	7,200	7,200
純資産額 (千円)	11,890,994	12,220,613	12,708,963	13,187,403	14,309,462
総資産額 (千円)	16,464,854	15,629,533	17,527,907	20,501,967	22,281,934
1株当たり純資産額 (円)	1,757.32	1,806.03	1,935.01	2,007.87	2,178.73
1株当たり配当額 (円)	20.00	15.00	30.00	30.00	70.00
(内、1株当たり中間配当額) (円)	(10.00)	(10.00)	(10.00)	(10.00)	(20.00)
1株当たり当期純利益金額 (円)	56.91	63.81	104.79	99.20	196.18
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	72.2	78.2	72.5	64.3	64.2
自己資本利益率 (%)	3.3	3.6	5.6	5.0	9.4
株価収益率 (倍)	10.9	10.8	13.1	16.6	20.4
配当性向 (%)	35.1	23.5	28.6	30.2	35.7
従業員数 (人)	152	163	181	202	231
(外、平均臨時雇用者数)	(14)	(16)	(21)	(28)	(28)

(注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 第50期の1株当たり配当額70円は、設立50周年記念配当金10円を含んでおります。

3 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【沿革】

年月	概要
昭和38年4月	瑞光鉄工株式会社設立。(大阪市東淀川区小松南通)
昭和44年8月	本社工場を大阪市東淀川区瑞光2丁目に移転。
昭和47年4月	新ターンナップオムツ製造機械を開発。
昭和47年10月	パルプ粉碎機械を開発。
昭和48年1月	インドネシアよりナプキン製造機械1台を受注。輸出第1号機。
昭和48年7月	高速ナプキン製造機械を開発。
昭和53年4月	第二工場を大阪市東淀川区瑞光2丁目に設置。
昭和55年1月	エラスチックオムツ製造機械を開発。
昭和55年12月	アメリカ・タンパックス社よりナプキン製造機械6台を受注。
昭和59年8月	第三工場を大阪市東淀川区瑞光3丁目に設置。
昭和59年10月	大人用パンツ型紙オムツ製造機械を開発。
昭和61年6月	本社工場を現地に移転。(旧本社工場、第二工場及び第三工場を閉鎖) 株式会社瑞光と商号変更。
平成元年10月	大阪証券取引所市場第二部(特別指定銘柄)に株式上場。
平成6年12月	鳥飼中工場を大阪府摂津市鳥飼中2丁目に設置。
平成8年1月	大阪証券取引所市場第二部銘柄に指定。
平成15年3月	海外子会社瑞光(上海)電気設備有限公司を中華人民共和国上海市嘉定区に設立。
平成18年9月	子会社株式会社瑞光メディカル設立。(大阪府摂津市鳥飼上4丁目)
平成20年6月	鶴野工場を大阪府摂津市鶴野3丁目に設置。
平成21年3月	海外子会社ZUIKO INC.をアメリカ合衆国イリノイ州シカゴに設立。
平成24年10月	海外子会社ZUIKO INDUSTRIA DE MAQUINAS LTDA.をブラジル連邦共和国サンパウロ州に設立。

3【事業の内容】

当社の企業集団は、当社及び子会社4社で構成されております。

当社は、生理用ナプキン製造機械、紙オムツ製造機械及びそれらに附随する機械装置、部品の製造販売及びサービスの提供を行っております。

連結子会社瑞光（上海）電気設備有限公司は中国国内において生理用ナプキン製造機械、紙オムツ製造機械の製造・販売及び部品の販売を行っており、当社は機械部品の一部を支給しております。

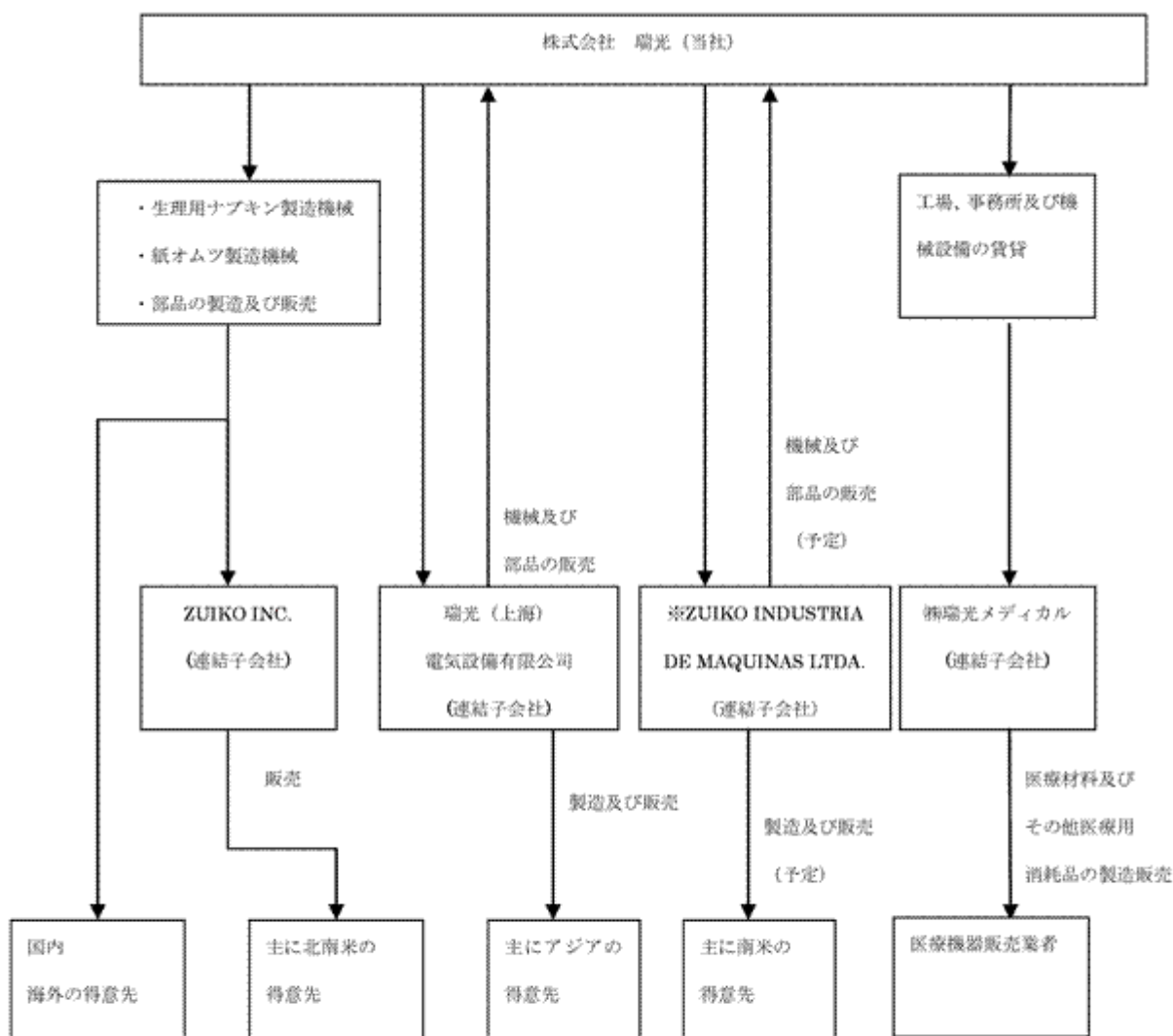
連結子会社ZUIKO INC. は、北南米を中心に生理用ナプキン製造機械、紙オムツ製造機械及び部品の販売活動を行っております。

連結子会社ZUIKO INDUSTRIA DE MAQUINAS LTDA. は、平成24年10月に設立しております。

連結子会社(株)瑞光メディカルは、医科向け手術用被覆・保護材及び熱傷被覆・保護材の製造をし、医療機器販売業者を通じて販売しております。

事業の系統図は次のとおりであります。

なお、当社グループは、生理用ナプキン製造機械及び紙オムツ製造機械等の一般産業用機械・装置製造業の単一セグメントであるため、セグメント別の記載を省略しております。



※ZUIKO INDUSTRIA DE MAQUINAS LTDA.については、平成24年10月に設立しているため、事業の系統図に含めております。

4【関係会社の状況】

名称	住所	資本金又は出 資金	主要な事業の内容	議決権の所有 割合 (%)	関係内容
(連結子会社) 瑞光(上海)電気設備 有限公司 (注)1.2	中華人民共和国 上海市	千米ドル 11,500	生理用ナプキン製 造機械 紙オムツ製造機械 の製造及び部品の 販売	100.0	当社製品の製造 アジアを中心に販 売
株式会社瑞光メディカ ル	大阪府摂津市	千円 75,000	医療材料及びその 他医療用消耗品の 製造販売 ペット用品及び介 護用品の製造販売	100.0	工場、事務所及び機 械設備の賃貸 役員の兼任 1名
ZUIKO INC. (注)2	アメリカ合衆国 イリノイ州	千米ドル 1,500	生理用ナプキン製 造機械 紙オムツ製造機械 及び部品の販売並 びにサービス業務	100.0	当社製品を北南米 を中心に販売
ZUIKO INDUSTRIA DE MAQUINAS LTDA. (注)1	ブラジル連邦共 和国 サンパウロ州	千BRL 10,000	生理用ナプキン製 造機械 紙オムツ製造機械 の製造及び部品の 販売 (予定)	100.0	当社製品の製造 南米を中心に販売

(注)1. 特定子会社であります。

2. 瑞光(上海)電気設備有限公司及びZUIKO INC.については、売上高(連結会社相互間の内部売上高を除く。)の連結売上高に占める割合が10%を超えております。

主要な損益情報等

(単位:千円)

区分	瑞光(上海) 電気設備有限公司	ZUIKO INC.
売上高	4,692,476	3,132,499
経常利益	1,186,747	219,313
当期純利益	1,039,343	148,993
純資産額	3,450,662	244,534
総資産額	7,380,049	1,505,499

5【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

平成25年2月20日現在

事業部門等の名称	従業員数(人)
製造部門	419(27)
管理部門	82(2)
合計	501(29)

- (注) 1 従業員数は就業人員であります。
- 2 従業員数欄の(外書)は、臨時従業員の年間平均雇用人員であります。
- 3 従業員数が前連結会計年度末に比べ102名増加しておりますが、これは主に当社及び連結子会社(瑞光(上海)電気設備有限公司)の生産能力の増強に伴うものであります。
- 4 当社グループは、生理用ナプキン製造機械及び紙オムツ製造機械等の一般産業用機械・装置製造業の単一セグメントであるため、セグメント別の記載を省略しております。

(2) 提出会社の状況

平成25年2月20日現在

従業員数(人)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(円)
231(28)	36.5	8.6	6,286,317

- (注) 1 従業員数は就業人員であります。
- 2 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。
- 3 従業員数欄の(外書)は、臨時従業員の年間平均雇用人員であります。
- 4 従業員数が前事業年度に比べ29名増加しておりますが、これは主に生産能力の増強に伴うものであります。
- 5 当社は、生理用ナプキン製造機械及び紙オムツ製造機械等の一般産業用機械・装置製造業の単一セグメントであるため、セグメント別の記載を省略しております。

(3) 労働組合の状況

当社グループは労働組合は結成されておりませんが、労使関係については良好であります。

第2【事業の状況】

1【業績等の概要】

(1) 業績

当連結会計年度のわが国の経済は、東日本大震災の復興需要もあり、緩やかながらも回復に向かっていますが、世界的に景気は減速傾向にあり、先行きが見えない状況が続いております。

このような経済環境の中で、当社グループにおきましては、中国を含む東南アジア新興国における衛生用品の需要が堅調に推移した結果、前連結会計年度を上回る売上高及び利益を獲得することができました。

新興国における積極的な設備投資は継続されると予想されますが、新興国における現地メーカーとの価額競争などにより受注価額の低下が懸念されます。当社グループはこれらに対し、原材料費、経費の削減などを継続するとともに、生産工程の抜本的な見直しを図ることでコストダウンを徹底し、競争力強化に努めてまいりました。次期連結会計年度におきましても、これらの取り組みを継続して行うとともに、技術開発などにも注力し持続的な成長を図ってまいります。

今後の見通しにつきましては、中国を含む東南アジア新興国を中心に堅調な推移をすると思われませんが、現在の円安傾向が持続するか先行きが不透明な状況のため、厳しい経済環境は継続すると予測しております。当社グループはこのような予測のもと、これまで以上の受注獲得、コスト削減を図り、海外子会社との密な連携を行うことで利益確保を目指してまいります。

主な製品別売上高につきましては、小児用紙オムツ製造機械15,975百万円（前期比47.8%増）、部品994百万円（同45.6%増）、大人用紙オムツ製造機械2,650百万円（同44.4%増）と増加いたしました。その他機械796百万円（同34.9%減）、生理用ナプキン製造機械1,634百万円（同2.9%減）は減少いたしました。

以上の結果、当連結会計年度の業績につきましては、売上高22,116百万円（前期比35.8%増）、営業利益3,242百万円（同84.2%増）、経常利益3,441百万円（同91.3%増）、当期純利益2,315百万円（同87.2%増）となりました。

なお、当社グループは、生理用ナプキン製造機械及び紙オムツ製造機械等の一般産業用機械・装置製造業の単一セグメントであるため、セグメント別の記載を省略しております。

(2) キャッシュ・フロー

当連結会計年度における現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ3,137百万円増加し、7,120百万円となりました。

当連結会計年度における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当連結会計年度において営業活動の結果獲得した資金は2,228百万円（前期は434百万円の使用）となりました。これは主に、売上債権の増加1,726百万円、たな卸資産の増加1,223百万円及び法人税等の支払360百万円がありましたが、税金等調整前当期純利益3,439百万円、前受金の増加1,310百万円、仕入債務の増加485百万円及び減価償却費の計上262百万円によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

当連結会計年度において投資活動の結果獲得した資金は810百万円（前期比63.9%減）となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出470百万円及び無形固定資産の取得による支出219百万円がありましたが、定期預金の純減少額1,513百万円によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

当連結会計年度において財務活動の結果使用した資金は272百万円（前期比33.1%増）となりました。これは主に、配当金の支払262百万円によるものであります。

2【生産、受注及び販売の状況】

(1) 生産実績

当社グループは、生理用ナプキン製造機械及び紙オムツ製造機械等の一般産業用機械・装置製造業の単一セグメントであり、当連結会計年度の生産実績を製品別に記載しております。

製品別	当連結会計年度 (自 平成24年 2月21日 至 平成25年 2月20日)	
	金額(千円)	前年同期比(%)
生理用ナプキン製造機械	1,634,595	97.1
小児用紙オムツ製造機械	15,975,091	147.8
大人用紙オムツ製造機械s	2,650,639	144.4
その他機	796,002	65.1
部品	994,822	145.6
その他	64,989	125.0
計	22,116,140	135.8

- (注) 1 金額は、販売価格で表示しております。
2 部品には仕入部品を含んでおります。
3 金額は、外注による生産実績を含んでおります。
4 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 受注状況

当社グループは、生理用ナプキン製造機械及び紙オムツ製造機械等の一般産業用機械・装置製造業の単一セグメントであり、当連結会計年度の受注状況を製品別に記載しております。

製品別	当連結会計年度 (自 平成24年 2月21日 至 平成25年 2月20日)			
	受注高 (千円)	前年同期比 (%)	受注残高 (千円)	前年同期比 (%)
生理用ナプキン製造機械	(2,018,692)	(150.0)	(1,320,453)	(318.0)
	2,909,978	197.7	1,727,894	381.8
小児用紙オムツ製造機械	(17,706,888)	(163.9)	(13,050,148)	(178.2)
	21,865,118	157.1	14,334,613	169.7
大人用紙オムツ製造機械	(409,284)	(33.6)	(808,042)	(79.6)
	3,187,037	120.5	2,776,878	123.9
その他機械	(209,436)	(208.4)	(10,280)	(5.8)
	699,260	97.8	412,851	81.0
部品	(705,232)	(162.6)	(-)	(-)
	994,822	145.6	-	-
その他	64,989	125.0	-	-
計	(21,049,533)	(151.4)	(15,188,925)	(170.1)
	29,721,208	152.5	19,252,238	165.3

- (注) 1 括弧内の数字(内書)は輸出受注高及び受注残高であり、受注高に対する輸出の割合は、当連結会計年度70.8%であります。
2 受注後、値引等のあったものは、受注高で調整しております。
3 金額は販売価格によっており、消費税等は含まれておりません。

(3) 販売実績

当社グループは、生理用ナプキン製造機械及び紙オムツ製造機械等の一般産業用機械・装置製造業の単一セグメントであり、当連結会計年度の販売実績を製品別に記載しております。

製品別	当連結会計年度 (自平成24年2月21日 至平成25年2月20日)	
	金額(千円)	前年同期比(%)
生理用ナプキン製造機械	(1,113,511) 1,634,595	(5.0%) 97.1
小児用紙オムツ製造機械	(11,981,389) 15,975,091	(54.2%) 147.8
大人用紙オムツ製造機械	(616,800) 2,650,639	(2.8%) 144.4
その他機械	(375,035) 796,002	(1.7%) 65.1
部品	(705,232) 994,822	(3.2%) 145.6
その他	64,989	125.0
計	(14,791,969) 22,116,140	(66.9%) 135.8

(注) 1 括弧内の数字(内書)は輸出版売高及び輸出割合であります。

2 主な相手先別の販売実績及びそれぞれの総販売実績に対する割合は次のとおりであります。

相手先	前連結会計年度		当連結会計年度	
	金額(千円)	割合(%)	金額(千円)	割合(%)
PROCTER AND GAMBLE COMPANY CINCINATI	-	-	3,659,395	16.5
ユニ・チャーム株式会社	2,003,426	12.3	2,554,050	11.5
花王株式会社	1,857,385	11.4	-	-

(注) 当該割合が100分の10未満については記載を省略しております。

3 上記金額には、消費税等は含まれておりません。

3【対処すべき課題】

当社グループは衛生用品製造機メーカーとして、グローバルNo.1シェアを獲得することを目標に掲げております。そのためには中国を含む東南アジア新興国のみならず、その他のグローバル市場でのシェア拡大が今後の発展の鍵になると考えております。

当社グループでは、当社・子会社が連携を深め、一体となって積極的な活動を展開し、翌連結会計年度は目標達成のために、特に以下の3点に重点を置いて取り組んでまいります。

当社グループの精神である“技術深耕”のもと、技術開発力、品質などのあらゆる面での向上に努めてまいります。

衛生用品の旺盛な需要に対し、生産能力を高めることで、市場シェアの向上に努めてまいります。

生産工程の抜本的な見直しを図ることで、コストダウンを徹底し、競争力強化に努めてまいります。

4【事業等のリスク】

有価証券報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項には、以下のようなものがあります。なお、文中における将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

原材料価格の高騰

当社グループが製造する機械の大部分は鋼材を使用しております。そのため鋼材価格が高止まりする状況が続きますと、業績等に影響を及ぼす可能性があります。

経済状況の変化

当社グループはアジア・欧米他の国々に輸出をしておりますが、世界経済や各国の景気動向及び大幅な為替変動によりましては業績に影響を及ぼす可能性があります。

為替レートの変動

連結財務諸表の作成時、海外子会社は現地通貨項目を円換算いたしますが、換算時の為替レートによりましては円換算後の計上額に影響を及ぼす可能性があります。

製品の品質

当社グループは現在まで信頼性の高い機械作りに取り組んでまいりましたが、今後重大な欠陥が生じないという保証はありません。予期せぬ製品の欠陥が発生した場合には、多額の費用が生じるとともに当社機械の信頼性や評価を低下させ、当社の業績に影響を及ぼす可能性があります。

知的財産権に関して

当社グループは独自の機械や部品を製造しておりますが、技術やノウハウが流出し他社で利用されることにより競争力を損なう可能性があること、反対に他社の知的財産権を当社グループが侵害したと主張され紛争となった場合には、当社グループの財政状態や業績に影響を及ぼす可能性があります。

中国での事業展開

当社グループは中国上海市に子会社を設立し機械や部品の製造をしておりますが、中でも上海市は経済発展が著しく、それに伴い予期せぬ規制や法律の変更がなされた場合、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

減損会計

当社グループが保有しております不動産及び有価証券に関しまして、収益性や価額が著しく低下した場合、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

5【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

6【研究開発活動】

当社グループの研究開発活動につきましては、高まる顧客ニーズと環境ニーズを先攻する独自技術の開発を基本姿勢としております。

なお、当連結会計年度の研究開発費の総額は87百万円であります。

その主なものは、第48期に導入しました研究開発用の紙オムツ製造設備にて、使い易い製造設備を目指す研究と、次世代制御システムを目指す新技術研究の継続及び省資源化を目指した紙オムツについての製造設備技術研究であります。

また、当社グループは、生理用ナプキン製造機械及び紙オムツ製造機械等の一般産業用機械・装置製造業の単一セグメントであるため、セグメント別の記載を省略しております。

7【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 財政状況

当連結会計年度末の資産は、前連結会計年度末に比べ5,813百万円増加し28,429百万円となりました。建設仮勘定が353百万円減少いたしました。受取手形及び売掛金が1,851百万円、現金及び預金が1,623百万円、仕掛品が1,076百万円、建物及び構築物が396百万円、原材料及び貯蔵品が359百万円、無形固定資産が213百万円、繰延税金資産が153百万円、投資有価証券が141百万円及び機械装置及び運搬具が135百万円増加いたしました。

負債は、前連結会計年度末に比べ3,307百万円増加し11,934百万円となりました。前受金が1,615百万円、未払法人税等が914百万円及び支払手形及び買掛金が663百万円増加いたしました。

純資産は、前連結会計年度末に比べ2,505百万円増加し16,494百万円となりました。利益剰余金が2,052百万円及び為替換算調整勘定が356百万円増加いたしました。

(2) 経営成績

当連結会計年度の業績につきましては売上高22,116百万円を計上いたしました。その主なものは生理用ナプキン製造機械が1,634百万円、小児用紙オムツ製造機械が15,975百万円、大人用紙オムツ製造機械が2,650百万円、その他機械が796百万円、部品が994百万円であります。

子会社の瑞光（上海）電気設備有限公司は、当連結会計年度に生産設備の増築に着手しており、生産能力の増強に努めております。当連結会計年度も売上高、利益とも順調に推移しております。

子会社株式会社瑞光メディカルは創業7年目を迎え順調に推移しております。

なお、子会社ZUIKO INC.は北南米への販売活動の強化のため、平成21年3月に設立しております。

また、子会社ZUIKO INDUSTRIA DE MAQUINAS LTDA.をブラジル連邦共和国サンパウロ州に平成24年10月に設立しております。

(3) 当期のキャッシュ・フローの状況

当連結会計年度における現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ3,137百万円増加し、7,120百万円となりました。

当連結会計年度における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当連結会計年度において営業活動の結果獲得した資金は2,228百万円（前期は434百万円の使用）となりました。これは主に、売上債権の増加1,726百万円、たな卸資産の増加1,223百万円及び法人税等の支払360百万円がりましたが、税金等調整前当期純利益3,439百万円、前受金の増加1,310百万円、仕入債務の増加485百万円及び減価償却費の計上262百万円によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

当連結会計年度において投資活動の結果獲得した資金は810百万円（前期比63.9%減）となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出470百万円及び無形固定資産の取得による支出219百万円がりましたが、定期預金の純減少額1,513百万円によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

当連結会計年度において財務活動の結果使用した資金は272百万円（前期比33.1%増）となりました。これは主に、配当金の支払262百万円によるものであります。

第3【設備の状況】

1【設備投資等の概要】

当連結会計年度の設備投資総額611百万円であり、その主なものは、ZUIKO INDUSTRIA DE MAQUINAS LTDA.（ブラジル）の建物及び土地の取得によるものであります。

なお、当社グループは、生理用ナプキン製造機械及び紙オムツ製造機械等の一般産業用機械・装置製造業の単一セグメントであるため、セグメント別の記載を省略しております。

2【主要な設備の状況】

当社グループにおける主要な設備は、次のとおりであります。

なお、当社は、生理用ナプキン製造機械及び紙オムツ製造機械等の一般産業用機械・装置製造業の単一セグメントであるため、セグメント別の記載を省略しております。

(1) 提出会社

事業所名 (所在地)	業務内容及び生産 品目	設備の内容	帳簿価額					従業員数 (人)	
			建物及び 構築物 (千円)	機械及び 装置 (千円)	土地 (千円) (面積㎡)	リース資産 (千円)	その他 資産 (千円)		合計 (千円)
本社工場 (大阪府摂津市)	生理用ナプキン製 造機械 紙オムツ製造機械 部品加工	生産設備	171,643	94,488	892,540 (6,549)	-	65,073	1,223,745	185 (27)
鳥飼中工場 (大阪府摂津市)	生理用ナプキン製 造機械 紙オムツ製造機械	生産設備	291,074	12,665	882,181 (5,556)	-	6,949	1,192,871	
鳥飼上工場 (大阪府摂津市)	生理用ナプキン製 造機械 紙オムツ製造機械	生産設備	89,000	14,738	237,393 (1,592)	-	2,856	343,988	
鳥飼本町工場 (大阪府摂津市)	生理用ナプキン製 造機械 紙オムツ製造機械	生産設備	34,910	2,612	207,102 (1,294)	-	731	245,357	
鶴野工場 (大阪府摂津市)	生理用ナプキン製 造機械 紙オムツ製造機械 部品加工	生産設備	133,238	22,371	1,153,033 (6,213)	48,405	10,046	1,367,095	
本社 (大阪府摂津市)	全社的 管理業務 販売業務	管理	11,970	-	- (-)	-	48,011	59,981	46 (1)
東倉庫 (大阪府摂津市)	倉庫	管理	3,244	-	16,034 (132)	-	-	19,278	-

(注) 1 従業員数欄の()内は期末の臨時従業員数で外書で示しております。

2 その他資産の内訳は、車両及び運搬具、工具、器具及び備品及び建設仮勘定であります。

3 本社の土地は、本社工場に含まれております。

4 上記の金額には消費税等は含まれておりません。

5 リース契約による賃借設備

名称	台数	リース期間	年間リース料 (千円)	リース契約残高 (千円)
マシニングセンター	10台	7年間	34,516	32,994
レーザー加工機	2台	7年間	12,079	24,428
車両運搬具	1台	2年間	1,841	2,134

(2) 国内子会社

会社名	事業所名 (所在地)	業務内容及び生産 品目	設備の内容	帳簿価額						従業員数 (人)
				建物及び 構築物 (千円)	機械及び 装置 (千円)	土地 (千円) (面積㎡)	リース資産 (千円)	その他 資産 (千円)	合計 (千円)	
株式会社瑞光 メディカル	鳥飼工場 (大阪府摂 津市)	医療材料 及びその 他医療用 消耗品の 製造販売	生産設備	-	-	- (-)	-	124	124	4

(注) その他資産の内訳は、車両及び運搬具であります。

(3) 在外子会社

会社名	事業所名 (所在地)	業務内容及び生産 品目	設備の内容	帳簿価額						従業員数 (人)
				建物及び 構築物 (千円)	機械及び 装置 (千円)	土地 (千円) (面積㎡)	リース資産 (千円)	その他 資産 (千円)	合計 (千円)	
瑞光(上海)電 気設備有限公 司	本社 (中華人民 共和国上海 市)	生理用 ナブキン 製造機械 紙オムツ 製造機械 部品加工	生産設備	770,144	306,553	- (33,747)	-	82,677	1,159,374	255
ZUIKO INC.	本社 (アメリカ 合衆国イリ ノイ州)	販売業務	販売設備	-	-	- (-)	-	4,463	4,463	4
ZUIKO INDUSTRIA DE MAQUINAS LTDA.	本社 (ブラジル 連邦共和国 サンパウロ 州)	生理用 ナブキン 製造機械 紙オムツ 製造機械 部品加工	生産設備	83,760	26,827	55,236 (21,932)	-	14,333	180,157	7

(注) 1 瑞光(上海)電気設備有限公司のその他資産の内訳は、車両及び運搬具、工具、器具及び備品及び建設仮勘定
であります。

2 ZUIKO INC. のその他資産の内訳は、車両及び運搬具及び工具、器具及び備品であります。

3 ZUIKO INDUSTRIA DE MAQUINAS LTDA. のその他資産の内訳は、車両及び運搬具、工具、器具及び備品及び建設
仮勘定であります。

4 瑞光(上海)電気設備有限公司の土地の面積は土地使用権に係るものであり、土地使用権の帳簿価格は 146,459
千円であります。

3 【設備の新設、除却等の計画】

(1) 重要な設備の新設等

該当事項はありません

(2) 重要な設備の除却等

該当事項はありません。

第4【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	19,000,000
計	19,000,000

【発行済株式】

種類	事業年度末現在発行数 (株) (平成25年2月20日)	提出日現在発行数(株) (平成25年5月17日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	7,200,000	7,200,000	大阪証券取引所 市場第二部	単元株式数 100株
計	7,200,000	7,200,000	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
平成2年4月5日	1,200,000	7,200,000	-	1,888,510	-	2,750,330

(注) 株式分割1株につき1:0.2

(6)【所有者別状況】

平成25年2月20日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)								単元未満株 式の状況 (株)
	政府及び地 方公共団体	金融機関	金融商品取 引業者	その他の法 人	外国法人等		個人その他	計	
					個人以外	個人			
株主数(人)	-	12	22	90	27	2	2,060	2,213	-
所有株式数 (単元)	-	5,300	1,272	21,121	13,571	7	30,701	71,972	2,800
所有株式数の 割合(%)	-	7.36	1.77	29.35	18.85	0.01	42.66	100.00	-

(注) 自己株式632,210株は「個人その他」に6,322単元及び「単元未満株式の状況」に10株を含めて記載しております。

(7)【大株主の状況】

平成25年2月20日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に対する 所有株式数の割合(%)
ザ エスエフピー バリュース・リアライゼーション マスターファンド リミテッド (常任代理人) シティバンク銀行株式会社	英領西インド諸島、ケイマン諸島、グランドケイマン、ジョージ・タウン、サウス・チャーチ・ストリート、ユグランド・ハウス、私書箱309GT エム・アンド・シー・コーポレート・サービスズ・リミテッド内 (東京都品川区東品川2-3-14)	985	13.68
有限会社和田ホールディングス	大阪市東淀川区小松3-2-6	900	12.50
和田明男	大阪市東淀川区	719	9.99
ユニ・チャーム株式会社	愛媛県四国中央市金生町下分182	245	3.40
ゴールドマン サックス インターナショナル (常任代理人) ゴールドマン・サックス証券株式会社	PETERBOROUGH COURT, 133 FLEET STREET, LONDON EC4A 2BB UK (東京都港区六本木6-10-1)	163	2.27
瑞光社員持株会	大阪府摂津市南別府町15-21	162	2.25
白十字株式会社	東京都豊島区高田3-23-12	153	2.14
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海1-8-11	140	1.95
株式会社GM INVESTMENTS	東京都中央区八重洲1-4-22	130	1.81
株式会社三菱東京UFJ銀行	東京都千代田区丸の内2-7-1	120	1.67
計	-	3,719	51.66

(注) 1. 当社は、自己株式632千株(8.78%)を保有しておりますが、上記大株主から除いております。

2. 上記の所有株式数のうち、信託業務に係る株式数は、次のとおりであります。

日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 140千株

(8) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成25年2月20日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 632,200	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 6,565,000	65,650	-
単元未満株式	普通株式 2,800	-	1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	7,200,000	-	-
総株主の議決権	-	65,650	-

(注) 単元未満株式には、当社所有の自己株式10株が含まれております。

【自己株式等】

平成25年2月20日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社瑞光	大阪府摂津市 南別府町15-21	632,200	-	632,200	8.78
計	-	632,200	-	632,200	8.78

(9) 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

2【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第7号に該当する普通株式の取得

(1)【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2)【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3)【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
当事業年度における取得自己株式	75	188,517
当期間における取得自己株式	-	-

(注) 当期間における取得自己株式には、平成25年5月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りにおける株式は含まれておりません。

(4)【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(円)	株式数(株)	処分価額の総額(円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	-	-	-	-
消却の処分を行った取得自己株式	-	-	-	-
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	-	-	-	-
その他	-	-	-	-
保有自己株式数	632,210	-	632,210	-

(注) 当期間における保有自己株式数には、平成25年5月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りにおける株式は含まれておりません。

3【配当政策】

当社の利益配分の方針は、企業体質と経営基盤の強化に備えるための内部留保の充実をはかりながら、株主の皆様に対して安定した配当が継続して行えることを基本として、業績に対応した配当額を決定すべきものと考えております。

当社の剰余金の配当は、中間配当及び期末配当の年2回を基本的な方針としております。

これらの剰余金の配当の決定機関は、期末配当については株主総会、中間配当については取締役会であります。

当期の配当につきましては、当期が当社設立50周年となりますので、1株当たりの期末配当は50周年記念配当10円を含め50円とし、中間配当20円と合わせまして、年間70円とさせていただきます。また、次期も厳しい経済環境の継続が予測されますので、利益確保が厳しい状況となっておりますので、次期配当は年間60円を予定しております。

また、内部留保資金につきましては、今後予想される経営環境の変化に対応すべく、今まで以上にコスト競争力を高め、市場ニーズに応える技術・製造開発体制を強化し、さらには、グローバル戦略の展開を図るために有効投資してまいりたいと考えております。

なお、当社は、毎年8月20日を基準日として取締役会の決議をもって、中間配当を行うことができる旨定款に定めております。

(注) 基準日が当事業年度に属する剰余金の配当は、以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)
平成24年10月1日 取締役会	131,356	20
平成25年5月17日 定時株主総会	328,389	50

4【株価の推移】

(1)【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第46期	第47期	第48期	第49期	第50期
決算年月	平成21年2月	平成22年2月	平成23年2月	平成24年2月	平成25年2月
最高(円)	889	812	1,498	1,650	4,080
最低(円)	539	610	581	835	1,555

(注) 最高・最低株価は、大阪証券取引所市場第二部におけるものであります。なお、期間は暦日どおりであります。

(2)【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成24年 9月	10月	11月	12月	平成25年 1月	2月
最高(円)	1,918	1,890	2,310	2,898	3,950	4,080
最低(円)	1,800	1,800	1,812	2,105	2,864	3,555

(注) 最高・最低株価は、大阪証券取引所市場第二部におけるものであります。なお、期間は暦日どおりであります。

5【役員の状況】

役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (千株)	
代表取締役 会長		和田隆男	昭和20年12月24日生	昭和38年4月 昭和45年4月 昭和57年5月 昭和59年5月 昭和61年9月 昭和63年5月 平成3年5月 平成20年5月	当社入社 当社取締役 当社常務取締役 当社専務取締役 当社取締役副社長 当社代表取締役副社長 当社代表取締役社長 当社代表取締役会長(現任)	(注)2	45	
代表取締役 社長		和田昇	昭和44年9月2日生	平成11年2月 平成12年6月 平成13年5月 平成15年8月 平成15年8月 平成18年9月 平成20年5月	当社入社 当社社長室長 当社取締役社長室長 当社取締役 瑞光(上海)電気設備有限公司総経 理 株式会社瑞光メディカル代表取締役 社長(現任) 当社代表取締役社長(現任)	(注)2	28	
取締役		梅林豊志	昭和38年9月29日生	平成2年4月 平成14年4月 平成15年5月 平成23年1月	当社入社 当社設計部長 当社取締役設計部長 当社取締役(現任)	(注)2	3	
取締役	購買部長	一浦雄三	昭和29年1月8日生	昭和56年3月 平成16年7月 平成21年5月 平成23年1月	当社入社 当社技術部長 当社取締役技術部長兼製造部長 当社取締役購買部長(現任)	(注)2	8	
常勤監査役		伏木秀文	昭和23年3月26日生	昭和48年4月 平成17年6月 平成21年5月	レンゴー株式会社入社 同社品質保証部長 当社常勤監査役(現任)	(注)3	-	
監査役		西川正一	昭和30年1月8日生	昭和58年1月 平成5年11月 平成6年5月 平成11年11月 平成13年5月	西川産業株式会社入社 同社常務取締役 当社監査役(現任) 西川産業株式会社専務取締役 同社代表取締役社長(現任)	(注)3	-	
監査役		竹内隆夫	昭和25年12月3日生	昭和52年4月 昭和63年4月 平成20年5月	弁護士登録 竹内総合法律事務所開設 当社監査役(現任)	(注)3	-	
計								86

- (注)1 常勤監査役伏木秀文、監査役西川正一及び竹内隆夫は、いずれも会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。
- 2 取締役の任期は、平成24年2月期に係る定時株主総会終結の時から平成26年2月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
- 3 監査役の任期は、平成23年2月期に係る定時株主総会終結の時から平成27年2月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
- 4 代表取締役会長和田隆男は、代表取締役社長和田昇の父であります。
- 5 当社では、経営環境の急激な変化に迅速かつ的確に対応するため、業務執行に専念する執行役員を取締役会において選任し、経営の意思決定・監督機能と業務執行の機能を分離し、意思決定の迅速化と業務執行体制の強化を図るため、執行役員制度を導入しております。執行役員は8名で、社長執行役員和田昇、常務執行役員梅林豊志、執行役員購買部長一浦雄三、執行役員ZUIKO INC.社長田中秀憲、執行役員瑞光(上海)電気設備有限公司総経理中門正毅、執行役員株式会社瑞光メディカル副社長倉田修平、執行役員P M (PROJECT MANEGEMENT)部長杉本雅一、執行役員管理部長和田晃司で構成されております。

6【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1)【コーポレート・ガバナンスの状況】

コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社のコーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方は、企業倫理・遵法精神に基づき、経営の透明性と公正性を向上させることにより企業の信頼を高めることを基本方針としております。

企業統治の体制

イ．企業統治の体制の概要

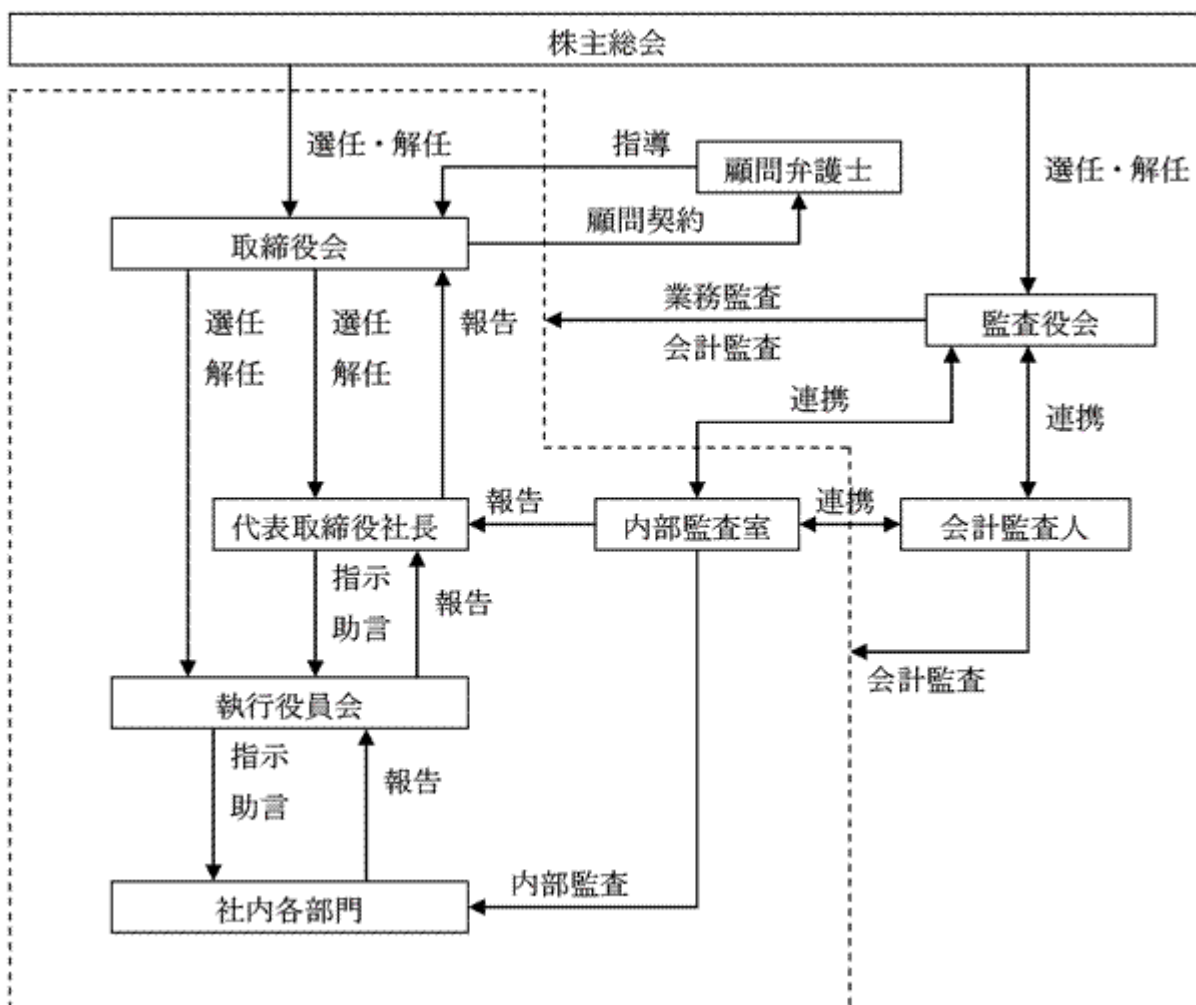
当社の取締役会は、取締役4名（本報告書提出日現在）で構成されており、原則毎月1回の定期開催と必要に応じた臨時開催により、当社の経営方針、経営戦略、事業計画、重要な財産の取得及び処分、重要な組織及び人事に関する意思決定、並びに業務執行の監督を行っております。

なお、業務執行の責任と権限を明確にするとともに、業務執行機能の更なる強化を目的として、平成20年5月より執行役員制度を導入しております。

当社は、社外監査役によって構成される監査役会を設置しております。監査役会は、社外監査役3名（本報告書提出日現在）で構成され、1名が常勤であります。また、社外監査役のうち1名は、大阪証券取引所が定める独立役員要件を満たしております。各監査役は、監査役会が作成した監査計画にしたがって、業務活動の全般にわたり、方針、計画、手続の妥当性や業務実施の有効性、法令等の遵守状況等につき、取締役会その他重要な会議への出席、重要な書類の閲覧、連結子会社の調査などを通じた監査を行い、これらを監査役会に報告しております。さらに、会計監査人から随時監査に関する報告及び説明を受け、かつ計算書類及び附属明細書についても検討を加えております。

また、法律上の判断を必要とする事項については、顧問弁護士等の社外専門家との密接な関係を保ちつつ、適正なアドバイスを受けております。

当社の業務執行及び経営の監視体制の模式図は次のとおりであります。



ロ．当該体制を採用する理由

当社は監査役体制の強化・充実により、コーポレート・ガバナンスの実行性をあげることが最も合理的であると考え、監査役会設置会社制度を選択しております。取締役会による業務執行の監督と監査役会による適法性・妥当性監査の2つの監視機能を発揮できる体制を維持することが当社にとって最適な体制であると考えております。

ハ．その他の企業統治に関する事項

内部統制システムの整備の状況

当社の内部統制システムは以下のように定めております。

取締役及び使用人の職務執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

法令及び定款を遵守し、会社規範に基づいた行動をとれるようにコンプライアンス体制に係る基本方針を定め、周知徹底させる。また、コンプライアンス体制の維持、向上を図るため、コンプライアンス委員会を設置して取り組み、教育・指導を実施する。なお、監査役会は委員会と連携し、遵守状況を監査する。

取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

文書管理規程に従い、株主総会議事録、取締役会議事録、取締役の職務執行に係る稟議書等の文書は管理及び保存を行い、取締役及び監査役が常時閲覧できるものとする。

損失の危険の管理に関する規程その他の体制

コンプライアンス、環境、災害、品質、情報セキュリティ及び輸出管理等に係るリスクについては、それぞれの担当部署にて、規則、規程の制定、教育、研修の実施、マニュアルの作成、配布を行うものとし、組織横断的にリスク状況の監視及び全社的対応を行うものとする。また、新たに生じたリスクについては取締役会において速やかに対応責任者となる役員を定める。

取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

取締役会の決定に基づく「取締役会等規程集」に則り、各部署の職務分掌を明確にし、職務権限、稟議規程により、役割、責任、執行手順の詳細を定める。

取締役会を原則として月1回開催するとともに、経営上の重要方針や緊急課題をタイムリーかつ適切に判断するために、協議を行う。その進捗状況を取締役に報告・審議し、各取締役の職務執行を効率化する。

当社及び子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制

当社は子会社をコンプライアンス管理、リスク管理が行えるように、グループ一体となって体制を構築し、連結での業務の適正と効率を確保する。子会社の社長は経営状態の把握と子会社に対する適切な管理・指導を行い、必要に応じて当社の定例取締役会に出席し、収益状況、事業の進捗状況等の事業報告を行う。

監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する事項及び補助すべき使用人の取締役からの独立性に関する事項

監査役の求めに応じて、監査役の職務を補助すべき使用人を置く。監査の対象からの独立性を確保するために、管理部あるいは監査対象との関連の少ない部署から補助すべき使用人を選択する。

取締役及び使用人が監査役に報告をするための体制その他の監査役への報告に関する体制

取締役及び使用人は、監査役・監査役会に対して、法定事項に加え、当社及び当社グループに重大な影響を及ぼす事項、法令及び定款違反、不正行為等の知りえた事実を報告する。

監査役は重要な意思決定プロセスや業務報告状況を把握するため、取締役会及び重要な会議に出席するとともに、稟議書類等の業務執行に係る重要文書を閲覧し取締役及び使用人に対して説明を求めることができる。

その他監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制

監査役は、会計監査人から会計監査の内容について説明を受けるとともに、意見交換を行い会計監査人との連携を図る。また、監査役会は、監査の実施にあたり必要と認める場合は、独自に弁護士、会計士等の外部専門家から助言を受けることができる。

財務報告の信頼性を確保するための体制

当社は、財務報告の信頼性を確保するため、金融商品取引法に基づく内部統制報告書の有効かつ適切な提出に向けた内部統制システム体制の構築を行う。その仕組みが適正に機能することを継続的に評価し、不備があれば必要な是正を行う。

反社会的勢力排除に向けた基本的な考え方及びその整備状況

取締役及び従業員は、市民生活の秩序や安全に脅威を与え、健全な経済・社会生活の発展を妨げる反社会的勢力に対しては毅然とした態度で組織的に対応する。

反社会的勢力の経営活動への関与や当該勢力が及ぼす被害を防止する観点から、倫理規範において反社会的勢力との関わりについて定め、反社会的勢力の排除に向けて全社的に取り組む。

反社会的勢力に対しては、通達等において主管部署及び情報収集、管理、報告方法等を定めるほか、外部専門機関との連携による情報収集や社内研修の実施を通して、事案の発生時に速やかに対処できる体制を構築する。

二．リスク管理体制の整備の状況

当社のリスク管理体制は、取締役会、監査役会及び執行役員会議の連携のもとにリスク情報の共有化を図り、事業の推進に伴って生じる損失の把握、分析を行いこれに対応しております。また、必要に応じて会計監査人及び顧問弁護士などの専門家から助言を受けております。

内部監査及び監査役監査の状況

当社の内部監査は、社長直属の内部監査室を設け専任者1名を配置し、監査役会との協力関係の下、必要な内部監査を実施しております。監査結果は内部監査室に集約され、内部監査室は監査役会及び会計監査人と監査結果に基づいて意見交換を行い、業務改善に向けた助言や勧告を行っております。

監査役監査は、監査役3名（全て社外監査役）により実施しております。監査役は、監査役監査方針及び監査役監査計画に基づき取締役会及びその他の重要な会議に出席し、法令、定款に反する行為や株主利益を侵害する決定がなされていないかどうかについて監査を実施しております。また、会計監査人とも定期的に意見交換を行っております。

会計監査の状況

当社の会計監査業務を執行した公認会計士は小川佳男、大谷智英の両氏であり、新日本有限責任監査法人に所属しております。当社の会計監査業務に係る補助者は公認会計士7名、その他2名であります。

社外監査役

当社の社外監査役は3名であります。

社外監査役である西川正一氏は西川産業株式会社の代表取締役社長であり、同社とは商品仕入等の営業取引があります。

また、社外監査役である竹内隆夫氏は竹内総合法律事務所の代表者で弁護士であります。

社外監査役と当社との間には、人的関係、資本的関係及び特別な利害関係はありません。

社外監査役である伏木秀文氏は、品質管理における経験と幅広い見識を当社の監査に反映していただくため、選任しております。

社外監査役である西川正一氏は、会社経営の経験から各分野に高い見識を有しており、監査機能を発揮していただくため、選任しております。

社外監査役である竹内隆夫氏は、会社経営に関与したことはありませんが、弁護士としての企業法務等に関する豊富な専門的知見を当社の監査業務に活かしていただくため、選任しております。

なお、当社において、社外監査役を選任するための独立性に関する基準は特段定めておりませんが、取締役の法令遵守、経営管理に対する監査に必要な知識と経験を有し、一般株主との利益相反が生じるおそれがないことを基本的な考え方として選任しております。

当社には社外取締役はおりません。当社は、経営の意思決定機能と、執行役員による業務執行を管理監督する機能を持つ取締役会に対し、監査役3名全員を社外監査役とすることで経営への監視機能を強化しております。

コーポレート・ガバナンスにおいて、外部からの客観的、中立の経営監視の機能が重要と考えており、外部からの経営監視機能が十分に機能する体制が整っているため、現状の体制としております。

役員報酬

イ．役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (千円)	報酬等の種類別の総額(千円)				対象となる役員 の員数(人)
		基本報酬	ストックオプション	賞与	退職慰労金	
取締役 (社外取締役を除く。)	154,438	114,438	-	40,000	-	4
監査役 (社外監査役を除く。)	-	-	-	-	-	-
社外役員	12,600	12,600	-	-	-	3

ロ．役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針の内容及び決定方法

取締役の報酬につきましては、企業業績に鑑み決定しており、取締役の報酬総額は、昭和58年6月15日の臨時株主総会において決議された報酬限度額(年額200,000千円)以内としております。また、監査役の報酬総額につきましては、平成20年5月16日の第45回定時株主総会において決議された報酬限度額(年額30,000千円)以内としております。

株式の保有状況

保有目的が純投資目的である投資株式の前事業年度及び当事業年度における貸借対照表計上額の合計額並びに当事業年度における受取配当金、売却損益及び評価損益の合計額

区分	前事業年度 (千円)	当事業年度(千円)			
	貸借対照表計上額 の合計額	貸借対照表計上額 の合計額	受取配当金の合計 額	売却損益の合計額	評価損益の合計額
非上場株式	-	-	-	-	-
上記以外の株式	569,809	711,231	18,628	-	436,436

取締役の定数

当社は取締役を10名以内とする旨定款に定めております。

取締役の選任及び解任の決議要件

取締役の選任の決議要件については、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨、また、選任決議は累積投票によらない旨を定款に定めております。解任の決議要件については、会社法と異なる別段の定めはありません。

取締役会で決議できる株主総会決議事項

イ．中間配当

当社は、株主への機動的な利益還元を行うため、会社法454条第5項の規定により、取締役会の決議によって毎年8月20日を基準日として、中間配当を行うことができる旨定款に定めております。

ロ．自己株式の取得

当社は会社法第165条第2項の規程により、取締役会の決議をもって、自己の株式を取得することが出来る旨を定款に定めております。これは自己株式の取得を取締役会の権限とすることにより、機動的な資本政策の遂行を目的とするものであります。

株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款に定めております。これは、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

(2) 【監査報酬の内容等】

【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)
提出会社	23,000	-	24,000	-
連結子会社	-	-	-	-
計	23,000	-	24,000	-

【その他重要な報酬の内容】

該当事項はありません。

【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

該当事項はありません。

【監査報酬の決定方針】

監査報酬の決定方針といたしましては、監査日数や、当社の規模・業務の特性などの要素を勘案し、適切に決定することとしております。

第5【経理の状況】

1 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

- (1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和51年大蔵省令第28号）に基づいて作成しております。
- (2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号）に基づいて作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度（平成24年2月21日から平成25年2月20日まで）の連結財務諸表及び事業年度（平成24年2月21日から平成25年2月20日まで）の財務諸表について、新日本有限責任監査法人により監査を受けております。

3 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し、会計基準等の変更等についての的確に対応できる体制を整備するため、監査法人等が主催するセミナーへの参加、会計専門誌の購読等により各種情報を取得しております。

1【連結財務諸表等】
(1)【連結財務諸表】
【連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年2月20日)	当連結会計年度 (平成25年2月20日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	6,478,827	8,102,598
受取手形及び売掛金	5,911,611	7,762,643
商品及び製品	13,364	14,837
仕掛品	2,748,549	3,824,699
原材料及び貯蔵品	496,871	855,876
繰延税金資産	134,003	287,523
その他	439,778	555,788
貸倒引当金	2,400	50
流動資産合計	16,220,608	21,403,915
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	1 1,197,184	1 1,593,268
機械装置及び運搬具(純額)	1 398,237	1 534,018
土地	2 3,388,285	2 3,443,522
リース資産(純額)	1 57,604	1 48,405
建設仮勘定	411,526	57,678
その他(純額)	1 69,708	1 142,615
有形固定資産合計	5,522,546	5,819,508
無形固定資産	156,025	369,035
投資その他の資産		
投資有価証券	569,809	711,231
繰延税金資産	31,105	-
その他	115,824	125,322
投資その他の資産合計	716,740	836,554
固定資産合計	6,395,312	7,025,098
資産合計	22,615,920	28,429,014
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	5,184,236	5,847,778
未払金	292,328	265,244
リース債務	9,659	9,659
未払法人税等	94,478	1,009,334
前受金	2,332,412	3,947,954
賞与引当金	127,535	192,321
役員賞与引当金	37,000	40,000
その他	94,685	142,839
流動負債合計	8,172,336	11,455,131

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年2月20日)	当連結会計年度 (平成25年2月20日)
固定負債		
繰延税金負債	-	16,755
退職給付引当金	111,558	130,911
リース債務	50,273	40,614
長期未払金	291,358	290,961
その他	1,335	-
固定負債合計	454,525	479,242
負債合計	8,626,862	11,934,373
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,888,510	1,888,510
資本剰余金	2,750,330	2,750,330
利益剰余金	11,091,294	13,143,802
自己株式	594,251	594,439
株主資本合計	15,135,883	17,188,202
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	198,353	294,865
土地再評価差額金	² 1,165,229	² 1,165,229
為替換算調整勘定	179,949	176,802
その他の包括利益累計額合計	1,146,825	693,561
純資産合計	13,989,058	16,494,640
負債純資産合計	22,615,920	28,429,014

【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】
【連結損益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成23年 2月21日 至 平成24年 2月20日)	当連結会計年度 (自 平成24年 2月21日 至 平成25年 2月20日)
売上高	16,288,571	22,116,140
売上原価	13,317,065	17,395,322
売上総利益	2,971,506	4,720,817
販売費及び一般管理費	^{1, 2} 1,210,546	^{1, 2} 1,477,941
営業利益	1,760,959	3,242,876
営業外収益		
受取利息	34,646	61,853
受取配当金	17,991	18,682
為替差益	-	165,320
その他	12,536	17,340
営業外収益合計	65,174	263,195
営業外費用		
租税公課	-	62,583
為替差損	25,122	-
その他	2,128	2,410
営業外費用合計	27,251	64,993
経常利益	1,798,882	3,441,078
特別利益		
固定資産売却益	³ 2,838	³ 25
過年度固定資産税還付金	4,194	-
特別利益合計	7,033	25
特別損失		
固定資産除却損	⁴ 317	⁴ 1,954
投資有価証券評価損	8,044	-
関係会社出資金売却損	8,284	-
特別損失合計	16,646	1,954
税金等調整前当期純利益	1,789,269	3,439,150
法人税、住民税及び事業税	457,780	1,273,007
法人税等調整額	94,756	149,078
法人税等合計	552,537	1,123,928
少数株主損益調整前当期純利益	1,236,732	2,315,221
当期純利益	1,236,732	2,315,221

【連結包括利益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成23年 2月21日 至 平成24年 2月20日)	当連結会計年度 (自 平成24年 2月21日 至 平成25年 2月20日)
少数株主損益調整前当期純利益	1,236,732	2,315,221
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	24,009	96,512
為替換算調整勘定	28,557	356,751
その他の包括利益合計	4,548	453,263
包括利益	1,232,183	2,768,485
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	1,232,183	2,768,485
少数株主に係る包括利益	-	-

【連結株主資本等変動計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成23年 2月21日 至 平成24年 2月20日)	当連結会計年度 (自 平成24年 2月21日 至 平成25年 2月20日)
株主資本		
資本金		
当期首残高	1,888,510	1,888,510
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	1,888,510	1,888,510
資本剰余金		
当期首残高	2,750,330	2,750,330
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	2,750,330	2,750,330
利益剰余金		
当期首残高	10,051,599	11,091,294
当期変動額		
剰余金の配当	197,036	262,713
当期純利益	1,236,732	2,315,221
当期変動額合計	1,039,695	2,052,507
当期末残高	11,091,294	13,143,802
自己株式		
当期首残高	594,205	594,251
当期変動額		
自己株式の取得	45	188
当期変動額合計	45	188
当期末残高	594,251	594,439
株主資本合計		
当期首残高	14,096,233	15,135,883
当期変動額		
剰余金の配当	197,036	262,713
当期純利益	1,236,732	2,315,221
自己株式の取得	45	188
当期変動額合計	1,039,650	2,052,319
当期末残高	15,135,883	17,188,202

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成23年 2月21日 至 平成24年 2月20日)	当連結会計年度 (自 平成24年 2月21日 至 平成25年 2月20日)
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金		
当期首残高	174,344	198,353
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	24,009	96,512
当期変動額合計	24,009	96,512
当期末残高	198,353	294,865
土地再評価差額金		
当期首残高	1,165,229	1,165,229
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	-	-
当期変動額合計	-	-
当期末残高	1,165,229	1,165,229
為替換算調整勘定		
当期首残高	151,391	179,949
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	28,557	356,751
当期変動額合計	28,557	356,751
当期末残高	179,949	176,802
その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	1,142,276	1,146,825
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	4,548	453,263
当期変動額合計	4,548	453,263
当期末残高	1,146,825	693,561
純資産合計		
当期首残高	12,953,956	13,989,058
当期変動額		
剰余金の配当	197,036	262,713
当期純利益	1,236,732	2,315,221
自己株式の取得	45	188
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	4,548	453,263
当期変動額合計	1,035,101	2,505,582
当期末残高	13,989,058	16,494,640

【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成23年 2月21日 至 平成24年 2月20日)	当連結会計年度 (自 平成24年 2月21日 至 平成25年 2月20日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	1,789,269	3,439,150
減価償却費	200,433	262,206
固定資産売却損益（は益）	2,838	25
固定資産除却損	317	1,954
投資有価証券評価損益（は益）	8,044	-
退職給付引当金の増減額（は減少）	22,354	19,352
長期未払金の増減額（は減少）	397	397
賞与引当金の増減額（は減少）	27,096	60,360
役員賞与引当金の増減額（は減少）	8,000	3,000
貸倒引当金の増減額（は減少）	1,000	2,350
受取利息及び受取配当金	52,638	80,535
売上債権の増減額（は増加）	3,109,411	1,726,928
たな卸資産の増減額（は増加）	1,607,886	1,223,584
仕入債務の増減額（は減少）	2,504,505	485,843
前受金の増減額（は減少）	1,098,259	1,310,656
未払消費税等の増減額（は減少）	42,562	38,569
その他	318,168	79,094
小計	509,377	2,508,178
利息及び配当金の受取額	54,868	80,720
法人税等の支払額	998,678	360,702
営業活動によるキャッシュ・フロー	434,432	2,228,196
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の純増減額（は増加）	2,743,792	1,513,879
有形固定資産の取得による支出	495,540	470,745
有形固定資産の売却による収入	666	-
無形固定資産の取得による支出	1,110	219,958
投資有価証券の取得による支出	1,455	1,534
保険積立金の積立による支出	1,952	561
その他	296	10,190
投資活動によるキャッシュ・フロー	2,244,104	810,887
財務活動によるキャッシュ・フロー		
自己株式の取得による支出	45	188
配当金の支払額	197,036	262,713
リース債務の返済による支出	7,681	9,659
財務活動によるキャッシュ・フロー	204,764	272,561
現金及び現金同等物に係る換算差額	33,204	371,126
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	1,571,702	3,137,649
現金及び現金同等物の期首残高	2,411,260	3,982,963
現金及び現金同等物の期末残高	3,982,963	7,120,612

【連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項】

1 連結の範囲に関する事項

(1) 連結子会社の数 4社

瑞光（上海）電気設備有限公司

株式会社瑞光メディカル

ZUIKO INC.

ZUIKO INDUSTRIA DE MAQUINAS LTDA.

なお、当連結会計年度において、ZUIKO INDUSTRIA DE MAQUINAS LTDA.を新たに設立したため、連結の範囲に含めております。

(2) 非連結子会社

該当はありません。

2 持分法の適用に関する事項

(1) 持分法を適用した関連会社数

該当はありません。

(2) 持分法を適用しない関連会社

該当はありません。

3 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社である瑞光（上海）電気設備有限公司、ZUIKO INC.及びZUIKO INDUSTRIA DE MAQUINAS LTDA.の決算日は12月31日であります。連結決算日との差は3か月以内であるため、当該連結子会社の決算日現在の財務諸表を基礎として連結を行っております。ただし、連結決算日との間に生じた重要な取引については連結上必要な調整を行っております。

連結子会社である株式会社瑞光メディカルの決算日は連結決算日と一致しております。

4 会計処理基準に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

(イ) 有価証券

その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）

時価のないもの

移動平均法による原価法

(ロ) たな卸資産

原材料及び貯蔵品、商品及び製品

主として先入先出法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）

仕掛品

個別法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

(イ) 有形固定資産（リース資産を除く）

定率法

ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物（建物付属設備を除く）及び在外子会社については定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物及び構築物 5～34年

機械装置及び運搬具 4～13年

(ロ) 無形固定資産（リース資産を除く）

自社利用のソフトウェア

社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法

その他

定額法

- (ハ)リース資産
リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。
なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース開始日が平成21年2月20日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。
- (3) 重要な引当金の計上基準
- (イ)貸倒引当金
債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。
- (ロ)賞与引当金
従業員に対する賞与の支払いに充てるため、支給見込額に基づき計上しております。
- (ハ)役員賞与引当金
役員に対する賞与の支払いに充てるため、支給見込額に基づき計上しております。
- (ニ)退職給付引当金
従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、当連結会計年度末において発生していると認められる額を計上しております。数理計算上の差異は、各期における従業員の平均残存勤務年数期間内の一定年数（5年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生翌連結会計年度から費用処理しております。
- (4) 重要な収益及び費用の計上基準
- 売上高及び売上原価の計上基準
当連結会計年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる機械装置の製造等
工事進行基準（工事の進捗率の見積りは原価比例法）
その他
工事完成基準及び出荷基準
- (5) 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準
外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。なお、在外子会社の資産及び負債は、当該連結子会社の決算日の直物為替相場により円貨に換算し、収益及び費用は期中平均相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定に含めております。
- (6) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲
手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりスクシカ負わない取得日から3か月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。
- (7) その他連結財務諸表作成のための重要な事項
消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

【会計方針の変更】

(会計上の見積りの変更と区分することが困難な会計方針の変更)

法人税法の改正(「経済社会の構造の変化に対応した税制の構築を図るための所得税法等の一部を改正する法律平成23年12月2日 法律第114号」及び「法人税法施行令の一部を改正する政令 平成23年12月2日 政令第379号」)に伴い、平成24年4月1日以後取得の有形固定資産の減価償却の方法を改正後の法人税法に基づく方法に変更しております。この変更による損益に与える影響は軽微であります。

【未適用の会計基準等】

- ・「退職給付に関する会計基準」(企業会計基準第26号 平成24年5月17日)
- ・「退職給付に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日)

1. 概要

(1) 連結貸借対照表上での取扱い

未認識数理計算上の差異及び未認識過去勤務費用を、税効果を調整の上、純資産の部(その他の包括利益累計額)に計上することとし、積立状況を示す額をそのまま負債(または資産)として計上することになります。

(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書上での取扱い

数理計算上の差異及び過去勤務費用の当期発生額のうち、費用処理されない部分についてはその他の包括利益に含めて計上し、その他の包括利益累計額に計上されている未認識数理計算上の差異及び未認識過去勤務費用のうち、当期に費用処理された部分についてはその他の包括利益の調整(組替調整)を行うことになります。

2. 適用予定日

平成26年2月21日以降開始する連結会計年度の期末から適用

3. 当該会計基準等の適用による影響

連結財務諸表作成時において財務諸表に与える影響は、現在評価中です。

【表示方法の変更】

(連結損益計算書)

前連結会計年度において、独立掲記しておりました「営業外収益」の「作業くず売却益」は、営業外収益の100分10以下となったため、当連結会計年度においては「その他」に含めて表示しております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の損益計算書において、「営業外収益」の「作業くず売却益」に表示していた6,582千円は、「その他」として組み替えをしております。

【追加情報】

(会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用)

当連結会計年度の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日)を適用しております。

【注記事項】

(連結貸借対照表関係)

1 有形固定資産減価償却累計額

	前連結会計年度 (平成24年2月20日)	当連結会計年度 (平成25年2月20日)
	2,685,405千円	2,938,467千円

2 土地の再評価に関する法律(平成10年3月31日公布法律第34号)に基づき、事業用の土地の再評価を行い、土地再評価差額金を純資産の部に計上しています。

再評価の方法

土地の再評価に関する法律施行令(平成10年3月31日公布政令第119号)第2条第4号に定める地価税法第16条に規定する地価税の課税価格の計算の基礎となる土地の価額を算定するために国税庁長官が定めて公表した方法により算定した価額に合理的な調整を行う方法により算出

再評価を行った年月日 平成14年2月20日

	前連結会計年度 (平成24年2月20日)	当連結会計年度 (平成25年2月20日)
再評価を行った土地の連結会計年度末における時価と再評価後の帳簿価額との差額	571,406千円	595,856千円

(連結損益計算書関係)

1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成23年 2月21日 至 平成24年 2月20日)	当連結会計年度 (自 平成24年 2月21日 至 平成25年 2月20日)
給与及び手当	264,686千円	306,420千円
賞与引当金繰入額	18,753	37,594
役員賞与引当金繰入額	33,000	40,000
退職給付費用	11,693	12,829
貸倒引当金繰入額	1,208	-
支払報酬	126,431	155,843

2 一般管理費に含まれる研究開発費

	前連結会計年度 (自 平成23年 2月21日 至 平成24年 2月20日)	当連結会計年度 (自 平成24年 2月21日 至 平成25年 2月20日)
	86,773千円	87,977千円

3 固定資産売却益の内容

	前連結会計年度 (自 平成23年 2月21日 至 平成24年 2月20日)	当連結会計年度 (自 平成24年 2月21日 至 平成25年 2月20日)
機械装置及び運搬具	2,838千円	25千円

4 固定資産除却損の内容

	前連結会計年度 (自 平成23年 2月21日 至 平成24年 2月20日)	当連結会計年度 (自 平成24年 2月21日 至 平成25年 2月20日)
建物及び構築物	- 千円	25千円
機械装置及び運搬具	76	1,032
その他	241	895

(連結包括利益計算書関係)

当連結会計年度(自 平成24年 2月21日 至 平成25年 2月20日)

その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

その他有価証券評価差額金：

当期発生額	139,887千円
組替調整額	-
税効果調整前	139,887
税効果額	43,375
その他有価証券評価差額金	96,512

為替換算調整勘定：

当期発生額	356,751
その他の包括利益合計	453,263

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自平成23年2月21日至平成24年2月20日)

1 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期首 (株)	増加(株)	減少(株)	当連結会計年度末 (株)
発行済株式 普通株式	7,200,000	-	-	7,200,000
合計	7,200,000	-	-	7,200,000
自己株式 普通株式	632,098	37	-	632,135
合計	632,098	37	-	632,135

(注) 普通株式の自己株式の株式数の増加37株は、単元未満株式の買取りによるものであります。

2 配当に関する事項

(1) 配当金の支払

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成23年5月17日 定時株主総会	普通株式	131,358	20	平成23年2月20日	平成23年5月18日
平成23年10月3日 取締役会	普通株式	65,678	10	平成23年8月20日	平成23年11月1日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当金のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成24年5月17日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	131,357	20	平成24年2月20日	平成24年5月18日

当連結会計年度（自 平成24年 2月21日 至 平成25年 2月20日）

1 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期首 (株)	増加(株)	減少(株)	当連結会計年度末 (株)
発行済株式 普通株式	7,200,000	-	-	7,200,000
合計	7,200,000	-	-	7,200,000
自己株式 普通株式	632,135	75	-	632,210
合計	632,135	75	-	632,210

(注) 普通株式の自己株式の株式数の増加75株は、単元未満株式の買取りによるものであります。

2 配当に関する事項

(1) 配当金の支払

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成24年 5月17日 定時株主総会	普通株式	131,357	20	平成24年 2月20日	平成24年 5月18日
平成24年10月 1日 取締役会	普通株式	131,356	20	平成24年 8月20日	平成24年11月 1日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当金のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日
平成25年 5月17日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	328,389	50	平成25年 2月20日	平成25年 5月20日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲載されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 (自 平成23年 2月21日 至 平成24年 2月20日)	当連結会計年度 (自 平成24年 2月21日 至 平成25年 2月20日)
現金及び預金勘定	6,478,827千円	8,102,598千円
預入期間が3か月を超える定期預金	2,495,864	981,985
現金及び現金同等物	3,982,963	7,120,612

(リース取引関係)

(借主側)

1. ファイナンス・リース取引

所有権移転外ファイナンス・リース取引

リース資産の内容

有形固定資産

事業における生産設備(機械装置及び運搬具)であります。

リース資産の減価償却の方法

連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「4. 会計処理基準に関する事項 (2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が、平成21年2月20日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっており、その内容は次のとおりであります。

(1) リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額及び期末残高相当額

(単位：千円)

	前連結会計年度(平成24年2月20日)		
	取得価額相当額	減価償却累計額相当額	期末残高相当額
機械装置及び運搬具	449,281	357,358	91,922
その他	7,200	3,900	3,300
合計	456,481	361,258	95,222

(単位：千円)

	当連結会計年度(平成25年2月20日)		
	取得価額相当額	減価償却累計額相当額	期末残高相当額
機械装置及び運搬具	219,849	176,105	43,744
その他	7,873	5,152	2,721
合計	227,723	181,257	46,465

(2) 未経過リース料期末残高相当額等

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年2月20日)	当連結会計年度 (平成25年2月20日)
未経過リース料期末残高相当額		
1年内	52,588	28,451
1年超	47,388	20,679
合計	99,977	49,130

(3) 支払リース料、減価償却費相当額及び支払利息相当額

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自平成23年2月21日 至平成24年2月20日)	当連結会計年度 (自平成24年2月21日 至平成25年2月20日)
支払リース料	78,809	49,369
減価償却費相当額	72,228	45,664
支払利息相当額	3,175	1,722

(4) 減価償却費相当額及び利息相当額の算定方法

減価償却費相当額の算定方法

- ・リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

利息相当額の算定方法

- ・リース料総額とリース物件の取得価額相当額の差額を利息相当額とし、各期への配分方法については、利息法によっております。

(減損損失について)

リース資産に配分された減損損失はありません。

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、資金運用については預金等、安全性の高い金融資産で運用し、また、資金調達については資金用途や調達環境等を勘案し調達手段を決定するものとしております。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。当該リスクに関しては、取引先ごとの期日管理及び残高管理を行うとともに、主な取引先の信用状況を定期的に把握する体制としております。

投資有価証券に含まれる株式は、主に業務上の関係を有する企業の株式であり、市場価格の変動リスクに晒されておりますが、定期的に時価を把握する体制としております。

支払手形及び買掛金は、事業活動から生じた営業債務であり、全て1年以内に支払期日が到来いたします。

未払法人税等は、法人税、住民税及び事業税に係る債務であり、全て1年以内に納付期日が到来いたします。

長期未払金は、主に役員退職慰労金の打切支給に係る債務であり、各役員の退職時に支給する予定であります。

リース取引に係るリース債務は、主に設備投資に必要な資金の調達を目的としたものであり、償還日は連結決算日後最長5年後であります。

(3) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することもあります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

前連結会計年度(平成24年2月20日)

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価(千円)	差額(千円)
(1) 現金及び預金	6,478,827	6,478,827	-
(2) 受取手形及び売掛金	5,911,611	5,911,611	-
(3) 投資有価証券	569,809	569,809	-
資産計	12,960,249	12,960,249	-
(1) 支払手形及び買掛金	5,184,236	5,184,236	-
(2) 未払法人税等	94,478	94,478	-
(3) 長期未払金	291,358	285,691	5,666
(4) リース債務(固定負債)	50,273	49,486	786
負債計	5,620,347	5,613,894	6,453

(注) 金融商品の時価の算定方法及びに投資有価証券に関する事項

資産

(1) 現金及び預金、並びに(2)受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(3) 投資有価証券

時価については、取引所の価格によっております。

負債

(1) 支払手形及び買掛金、並びに(2)未払法人税等

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(3) 長期未払金

時価の算定は、合理的に見積りした支払時期に基づき、国債の利率で割り引いた現在価値によっております。

(4)リース債務（固定負債）

元利金の合計額を、新規に同様のリース取引を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

当連結会計年度（平成25年2月20日）

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価(千円)	差額(千円)
(1) 現金及び預金	8,102,598	8,102,598	-
(2) 受取手形及び売掛金	7,762,643	7,762,643	-
(3) 投資有価証券	711,231	711,231	-
資産計	16,576,473	16,576,473	-
(1) 支払手形及び買掛金	5,847,778	5,847,778	-
(2) 未払法人税等	1,009,334	1,009,334	-
(3) 長期未払金	290,961	288,461	2,500
(4) リース債務（固定負債）	40,614	40,405	208
負債計	7,188,687	7,185,979	2,708

(注) 金融商品の時価の算定方法並びに投資有価証券に関する事項

資 産

(1) 現金及び預金、並びに(2) 受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(3) 投資有価証券

時価については、取引所の価格によっております。

負 債

(1) 支払手形及び買掛金、並びに(2) 未払法人税等

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(3) 長期未払金

時価の算定は、合理的に見積りした支払時期に基づき、国債の利率で割り引いた現在価値によっております。

(4) リース債務（固定負債）

元利金の合計額を、新規に同様のリース取引を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

3. 金銭債権及び満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額
前連結会計年度(平成24年2月20日)

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
預金	6,477,504	-	-	-
受取手形及び売掛金	5,911,611	-	-	-
合計	12,389,115	-	-	-

当連結会計年度(平成25年2月20日)

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
預金	8,100,797	-	-	-
受取手形及び売掛金	7,762,643	-	-	-
合計	15,863,441	-	-	-

4. リース債務の連結決算日後の返済予定額
連結附属明細表「借入金等明細表」をご参照下さい。

(有価証券関係)

1 その他有価証券

前連結会計年度(平成24年2月20日)

	種類	連結貸借対照表計上額(千円)	取得原価(千円)	差額(千円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	(1) 株式	467,272	161,790	305,481
	(2) 債券	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	467,272	161,790	305,481
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	(1) 株式	102,537	111,471	8,933
	(2) 債券	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	102,537	111,471	8,933
合計		569,809	273,261	296,548

当連結会計年度(平成25年2月20日)

	種類	連結貸借対照表計上額(千円)	取得原価(千円)	差額(千円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	(1) 株式	683,844	238,121	445,723
	(2) 債券	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	683,844	238,121	445,723
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	(1) 株式	27,387	36,674	9,287
	(2) 債券	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	27,387	36,674	9,287
合計		711,231	274,795	436,436

2. 減損処理を行った有価証券

前連結会計年度において、その他有価証券の株式について8,044千円減損処理を行っております。

なお、減損処理にあたっては、期末における時価が取得原価に比べ50%以上下落した場合には全て減損処理を行い、30～50%程度下落した場合には、回復可能性等を考慮して必要と認められた額について減損処理を行っております。

当連結会計年度において、その他有価証券の株式について減損処理は行っておりません。

(デリバティブ取引関係)

前連結会計年度(自平成23年2月21日 至平成24年2月20日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自平成24年2月21日 至平成25年2月20日)

該当事項はありません。

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

退職金制度の100%全額について確定給付企業年金制度を採用しております。

2. 退職給付債務に関する事項

	前連結会計年度 (平成24年2月20日)	当連結会計年度 (平成25年2月20日)
退職給付債務(千円)	418,887	432,372
(1) 年金資産(千円)	282,350	327,960
(2) 退職給付引当金(千円)	111,558	130,911
(3) 未認識数理計算上の差異(千円)	24,978	26,499

3. 退職給付費用に関する事項

	前連結会計年度 (自平成23年2月21日 至平成24年2月20日)	当連結会計年度 (自平成24年2月21日 至平成25年2月20日)
退職給付費用(千円)	61,831	63,192
(1) 勤務費用(千円)	32,298	32,692
(2) 利息費用(千円)	8,497	8,377
(3) 期待運用収益(減算)(千円)	2,606	2,823
(4) 数理計算上の差異の費用処理額(千円)	23,641	24,945

4. 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項

(1) 退職給付見込額の期間配分方法

期間定額基準

(2) 割引率

前連結会計年度 (自 平成23年 2月21日 至 平成24年 2月20日)	当連結会計年度 (自 平成24年 2月21日 至 平成25年 2月20日)
2.0%	2.0%

(3) 期待運用収益率

前連結会計年度 (自 平成23年 2月21日 至 平成24年 2月20日)	当連結会計年度 (自 平成24年 2月21日 至 平成25年 2月20日)
1.0%	1.0%

(4) 数理計算上の差異の処理年数

5年(各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌連結会計年度から費用処理することとしております。)

(ストック・オプション等関係)

前連結会計年度(自平成23年 2月21日 至平成24年 2月20日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自平成24年 2月21日 至平成25年 2月20日)

該当事項はありません。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (平成24年2月20日)	当連結会計年度 (平成25年2月20日)
繰延税金資産		
長期未払金	110,206千円	110,206千円
売上原価	39,853	88,714
賞与引当金	44,687	63,087
未払事業税	3,178	62,771
退職給付引当金	39,759	46,656
研究開発費	9,316	41,647
税務上の繰越欠損金	52,595	31,568
連結会社間内部利益消去	21,386	30,998
投資有価証券	29,371	29,371
未払金	11,777	14,150
研究開発資産	24,967	8,995
クレーム処理損失	10,122	-
その他	6,552	7,038
繰延税金資産小計	403,776	535,208
評価性引当額	88,592	70,989
繰延税金資産合計	315,183	464,218
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額金	98,195	141,571
固定資産圧縮積立金	51,879	51,879
繰延税金負債合計	150,074	193,450
繰延税金資産の純額	165,109	270,768

(注) 繰延税金資産の純額は、連結貸借対照表の以下の項目に含まれております。

	前連結会計年度 (平成24年2月20日)	当連結会計年度 (平成25年2月20日)
流動資産 - 繰延税金資産	134,003千円	287,523千円
固定資産 - 繰延税金資産	31,105	-
固定負債 - 繰延税金負債	-	16,755

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前連結会計年度 (平成24年2月20日)	当連結会計年度 (平成25年2月20日)
法定実効税率	40.5%	40.5%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	1.6	0.9
住民税均等割	0.2	0.1
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	0.1	0.1
過年度法人税等	1.4	-
税率変更による影響額	0.4	-
海外子会社との税率差異	11.5	9.4
その他	1.6	0.7
税効果会計適用後の法人税等の負担率	30.9	32.7

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前連結会計年度(自 平成23年2月21日 至 平成24年2月20日)及び当連結会計年度(自 平成24年2月21日 至 平成25年2月20日)

当社グループは、生理用ナプキン製造機械及び紙オムツ製造機械等の一般産業用機械・装置製造業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

【関連情報】

前連結会計年度(自 平成23年2月21日 至 平成24年2月20日)

1. 製品及びサービスごとの情報

(単位：千円)

	生理用ナプキン製造機械	紙オムツ製造機械	その他	合計
外部顧客への売上高	1,683,413	12,646,919	1,958,238	16,288,571

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

(単位：千円)

日本	アジア	欧州	北米	その他	合計
5,243,867	8,561,953	2,244,538	186,553	51,659	16,288,571

(注) 1 国又は地域の区分は、地理的接近度により区分しております。

2 各区分に属する主な国または地域

アジア : 東アジア及び東南アジア諸国

欧州 : ヨーロッパ諸国

北米 : 米国、カナダ

(2) 有形固定資産

(単位：千円)

日本	アジア	北米	合計
4,589,888	924,275	8,382	5,522,546

3. 主要な顧客ごとの情報

(単位：千円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
ユニ・チャーム株式会社	2,003,426	
花王株式会社	1,857,385	

(注) 当社グループは、生理用ナプキン製造機械及び紙オムツ製造機械等の一般産業用機械・装置製造業の単一セグメントであるため、関連するセグメント名の記載を省略しております。

当連結会計年度（自 平成24年 2月21日 至 平成25年 2月20日）

1．製品及びサービスごとの情報

（単位：千円）

	生理用ナプキン製造機械	紙オムツ製造機械	その他	合計
外部顧客への売上高	1,634,595	18,625,730	1,855,814	22,116,140

2．地域ごとの情報

(1) 売上高

（単位：千円）

日本	アジア	欧州	北米	その他	合計
7,324,171	10,584,888	3,024,799	1,123,363	58,918	22,116,140

（注）1 国又は地域の区分は、地理的接近度により区分しております。

2 各区分に属する主な国または地域

アジア：東アジア及び東南アジア諸国

欧州：ヨーロッパ諸国

北米：米国、カナダ

(2) 有形固定資産

（単位：千円）

日本	アジア	北米	南米	合計
4,486,562	1,148,325	4,463	180,157	5,819,508

3．主要な顧客ごとの情報

（単位：千円）

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
PROCTER AND GAMBLE COMPANY CINCINATI	3,659,395	
ユニ・チャーム株式会社	2,554,050	

（注）当社グループは、生理用ナプキン製造機械及び紙オムツ製造機械等の一般産業用機械・装置製造業の単一セグメントであるため、関連するセグメント名の記載を省略しております。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度（自 平成23年2月21日 至 平成24年2月20日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自 平成24年2月21日 至 平成25年2月20日）

該当事項はありません。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度（自 平成23年2月21日 至 平成24年2月20日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自 平成24年2月21日 至 平成25年2月20日）

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前連結会計年度（自 平成23年2月21日 至 平成24年2月20日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自 平成24年2月21日 至 平成25年2月20日）

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引

(ア) 連結財務諸表提出会社の親会社及び主要株主(会社等の場合に限る。)等

前連結会計年度(自平成23年2月21日至平成24年2月20日)及び当連結会計年度(自平成24年2月21日至平成25年2月20日)

該当事項はありません。

(イ) 連結財務諸表提出会社の非連結子会社及び関連会社等

前連結会計年度(自平成23年2月21日至平成24年2月20日)及び当連結会計年度(自平成24年2月21日至平成25年2月20日)

該当事項はありません。

(ウ) 連結財務諸表提出会社の役員及び主要株主(個人の場合に限る。)等

前連結会計年度(自平成23年2月21日至平成24年2月20日)

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金(千円)	事業の内容又は職業	議決権等の所有(被所有)割合(%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額(千円)	科目	期末残高(千円)
役員	西川正一	-	-	当社監査役 西川産業㈱ 代表取締役 社長	-	西川産業㈱からの部品仕入及び機械購入	西川産業㈱からの部品仕入及び機械購入	290,120	支払手形及び買掛金	145,525

当連結会計年度(自平成24年2月21日至平成25年2月20日)

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金(千円)	事業の内容又は職業	議決権等の所有(被所有)割合(%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額(千円)	科目	期末残高(千円)
役員	西川正一	-	-	当社監査役 西川産業㈱ 代表取締役 社長	-	西川産業㈱からの部品仕入及び機械購入	西川産業㈱からの部品仕入及び機械購入	211,963	支払手形及び買掛金	75,307

(注) 1. 上記の金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

2. 取引条件及び取引条件の決定方針等一般取引者と同様であります。

[次へ](#)

(1株当たり情報)

項目	前連結会計年度 (自平成23年2月21日 至平成24年2月20日)	当連結会計年度 (自平成24年2月21日 至平成25年2月20日)
1株当たり純資産額	2,129.92円	2,511.44円
1株当たり当期純利益金額	188.30円	352.51円

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2. 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前連結会計年度 (平成24年2月20日)	当連結会計年度 (平成25年2月20日)
連結貸借対照表の純資産の部の合計額(千円)	13,989,058	16,494,640
普通株式に係る純資産額(千円)	13,989,058	16,494,640
普通株式の発行済株式数(株)	7,200,000	7,200,000
普通株式の自己株式数(株)	632,135	632,210
1株当たり純資産額の算定に用いられた普通株式の数(株)	6,567,865	6,567,790

3. 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前連結会計年度 (自平成23年2月21日 至平成24年2月20日)	当連結会計年度 (自平成24年2月21日 至平成25年2月20日)
連結損益計算書上の当期純利益(千円)	1,236,732	2,315,221
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る当期純利益(千円)	1,236,732	2,315,221
普通株式の期中平均株式数(株)	6,567,877	6,567,834

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限
1年以内に返済予定のリース債務	9,659	9,659	-	-
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)	50,273	40,614	-	平成26年～31年
合計	59,932	50,273	-	-

(注) 1. リース債務の平均利率については、リース料総額に含まれる利息相当額を控除する前の金額でリース債務を連結貸借対照表に計上しているため、記載しておりません。

2. リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)の連結決算日後5年間の返済予定額は以下のとおりであります。

	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
リース債務	9,659	9,659	9,659	9,107

【資産除去債務明細表】

該当事項はありません。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高(千円)	4,494,902	9,532,692	15,272,093	22,116,140
税金等調整前四半期(当期) 純利益金額(千円)	251,515	986,999	1,980,304	3,439,150
四半期(当期)純利益金額 (千円)	157,474	635,766	1,288,399	2,315,221
1株当たり四半期(当期)純 利益金額(円)	23.98	96.80	196.17	352.51

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり四半期純利益金額 (円)	23.98	72.82	99.37	156.34

決算日後の状況

特記事項はありません。

訴訟

該当事項はありません。

2【財務諸表等】
(1)【財務諸表】
【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成24年2月20日)	当事業年度 (平成25年2月20日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,297,432	4,341,275
受取手形	146,271	57,784
売掛金	1 6,617,316	1 7,360,725
仕掛品	2,039,637	2,081,351
原材料及び貯蔵品	276,728	417,960
前渡金	1,535	62,390
前払費用	14,015	36,645
繰延税金資産	116,803	263,861
その他	262,156	190,581
貸倒引当金	2,400	50
流動資産合計	13,769,497	14,812,527
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	2 785,543	2 730,935
構築物（純額）	2 9,689	2 8,428
機械及び装置（純額）	2 215,471	2 171,590
車両運搬具（純額）	2 23,619	2 26,091
工具、器具及び備品（純額）	2 38,193	2 78,852
土地	3 3,388,285	3 3,388,285
リース資産（純額）	2 57,604	2 48,405
建設仮勘定	71,298	34,725
有形固定資産合計	4,589,705	4,487,313
無形固定資産		
ソフトウェア	12,945	188,967
電話加入権	683	683
その他	873	719
無形固定資産合計	14,502	190,370
投資その他の資産		
投資有価証券	569,809	711,231
関係会社株式	202,141	202,141
関係会社出資金	1,287,476	1,757,261
長期前払費用	10,414	8,055
繰延税金資産	26,919	-
その他	102,598	113,033
投資損失引当金	71,100	-
投資その他の資産合計	2,128,261	2,791,723
固定資産合計	6,732,470	7,469,407
資産合計	20,501,967	22,281,934

(単位：千円)

	前事業年度 (平成24年2月20日)	当事業年度 (平成25年2月20日)
負債の部		
流動負債		
支払手形	4,053,156	3,605,795
買掛金	1,323,830	1,262,891
リース債務	9,659	9,659
未払金	246,689	194,530
未払法人税等	37,787	892,467
前受金	1,019,294	1,308,243
預り金	12,799	13,356
前受収益	1,775	1,775
賞与引当金	102,700	148,800
役員賞与引当金	37,000	40,000
その他	10,179	1,873
流動負債合計	6,854,873	7,479,393
固定負債		
繰延税金負債	-	24,092
退職給付引当金	111,558	130,911
リース債務	50,273	40,614
長期未払金	291,358	290,961
その他	6,500	6,500
固定負債合計	459,690	493,079
負債合計	7,314,563	7,972,472
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,888,510	1,888,510
資本剰余金		
資本準備金	2,750,330	2,750,330
資本剰余金合計	2,750,330	2,750,330
利益剰余金		
利益準備金	206,864	206,864
その他利益剰余金		
固定資産圧縮積立金	⁴ 93,685	⁴ 93,685
別途積立金	7,700,000	8,800,000
繰越利益剰余金	2,109,142	2,034,877
利益剰余金合計	10,109,691	11,135,426
自己株式	594,251	594,439
株主資本合計	14,154,280	15,179,826
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	198,353	294,865
土地再評価差額金	³ 1,165,229	³ 1,165,229
評価・換算差額等合計	966,876	870,364
純資産合計	13,187,403	14,309,462
負債純資産合計	20,501,967	22,281,934

【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成23年 2月21日 至 平成24年 2月20日)	当事業年度 (自 平成24年 2月21日 至 平成25年 2月20日)
売上高	3 14,238,785	3 17,811,067
売上原価		
当期製品製造原価	12,117,546	14,613,669
売上総利益	2,121,238	3,197,398
販売費及び一般管理費	1, 2 1,019,105	1, 2 1,229,504
営業利益	1,102,133	1,967,893
営業外収益		
受取利息	3,616	895
受取配当金	17,991	18,682
為替差益	-	123,177
投資損失引当金戻入額	-	71,100
その他	3 36,463	3 36,892
営業外収益合計	58,071	250,747
営業外費用		
為替差損	13,241	-
賃貸収入原価	14,543	12,294
その他	0	0
営業外費用合計	27,785	12,295
経常利益	1,132,419	2,206,346
特別利益		
固定資産売却益	4 2,838	4 25
投資損失引当金戻入額	22,035	-
特別利益合計	24,874	25
特別損失		
固定資産除却損	5 125	5 565
投資有価証券評価損	8,044	-
関係会社株式評価損	2,829	-
関係会社出資金売却損	8,284	-
特別損失合計	19,283	565
税引前当期純利益	1,138,010	2,205,806
法人税、住民税及び事業税	374,310	1,056,780
法人税等調整額	112,186	139,422
法人税等合計	486,496	917,357
当期純利益	651,513	1,288,448

【製造原価明細書】

区分	注記 番号	前事業年度 (自平成23年2月21日 至平成24年2月20日)		当事業年度 (自平成24年2月21日 至平成25年2月20日)	
		金額(千円)	構成比 (%)	金額(千円)	構成比 (%)
1 材料費		8,396,236	62.3	8,826,008	59.9
2 外注加工費		2,848,802	21.1	3,252,817	22.1
3 労務費 (内賞与引当金繰入額) (内退職給付費用)		1,273,081 (82,100) (50,138)	9.4	1,450,064 (118,300) (50,546)	9.8
4 経費	1	965,845	7.2	1,213,385	8.2
当期総製造費用		13,483,966	100.0	14,742,276	100.0
期首仕掛品たな卸高		873,745		2,039,637	
他勘定振替高	2	200,526		86,892	
期末仕掛品たな卸高		2,039,637		2,081,351	
当期製品製造原価		12,117,546		14,613,669	

原価計算の方法

原価計算の方法は、個別原価計算による実際原価計算であります。

(注) 1. 主な内訳の次のとおりであります。

項目	前事業年度 (自平成23年2月21日 至平成24年2月20日)	当事業年度 (自平成24年2月21日 至平成25年2月20日)
減価償却費	106,973千円	164,202千円
消耗品費	141,249	149,202
運賃	149,010	146,287
荷造梱包費	58,639	143,911

2. 他勘定振替高の内訳は次のとおりであります。

項目	前事業年度 (自平成23年2月21日 至平成24年2月20日)	当事業年度 (自平成24年2月21日 至平成25年2月20日)
研究開発費	78,460千円	86,559千円
機械及び装置	122,066	333
その他	0	-
計	200,526	86,892

【株主資本等変動計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成23年 2月21日 至 平成24年 2月20日)	当事業年度 (自 平成24年 2月21日 至 平成25年 2月20日)
株主資本		
資本金		
当期首残高	1,888,510	1,888,510
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	1,888,510	1,888,510
資本剰余金		
資本準備金		
当期首残高	2,750,330	2,750,330
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	2,750,330	2,750,330
資本剰余金合計		
当期首残高	2,750,330	2,750,330
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	2,750,330	2,750,330
利益剰余金		
利益準備金		
当期首残高	206,864	206,864
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	206,864	206,864
その他利益剰余金		
固定資産圧縮積立金		
当期首残高	86,625	93,685
当期変動額		
固定資産圧縮積立金の積立	7,059	-
当期変動額合計	7,059	-
当期末残高	93,685	93,685
別途積立金		
当期首残高	7,700,000	7,700,000
当期変動額		
別途積立金の積立	-	1,100,000
当期変動額合計	-	1,100,000
当期末残高	7,700,000	8,800,000
繰越利益剰余金		
当期首残高	1,661,725	2,109,142
当期変動額		
固定資産圧縮積立金の積立	7,059	-
別途積立金の積立	-	1,100,000
剰余金の配当	197,036	262,713
当期純利益	651,513	1,288,448
当期変動額合計	447,416	74,265
当期末残高	2,109,142	2,034,877

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成23年 2月21日 至 平成24年 2月20日)	当事業年度 (自 平成24年 2月21日 至 平成25年 2月20日)
利益剰余金合計		
当期首残高	9,655,214	10,109,691
当期変動額		
剰余金の配当	197,036	262,713
当期純利益	651,513	1,288,448
当期変動額合計	454,476	1,025,734
当期末残高	10,109,691	11,135,426
自己株式		
当期首残高	594,205	594,251
当期変動額		
自己株式の取得	45	188
当期変動額合計	45	188
当期末残高	594,251	594,439
株主資本合計		
当期首残高	13,699,849	14,154,280
当期変動額		
剰余金の配当	197,036	262,713
当期純利益	651,513	1,288,448
自己株式の取得	45	188
当期変動額合計	454,430	1,025,546
当期末残高	14,154,280	15,179,826
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金		
当期首残高	174,344	198,353
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	24,009	96,512
当期変動額合計	24,009	96,512
当期末残高	198,353	294,865
土地再評価差額金		
当期首残高	1,165,229	1,165,229
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	1,165,229	1,165,229
評価・換算差額等合計		
当期首残高	990,885	966,876
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	24,009	96,512
当期変動額合計	24,009	96,512
当期末残高	966,876	870,364

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成23年 2月21日 至 平成24年 2月20日)	当事業年度 (自 平成24年 2月21日 至 平成25年 2月20日)
純資産合計		
当期首残高	12,708,963	13,187,403
当期変動額		
剰余金の配当	197,036	262,713
当期純利益	651,513	1,288,448
自己株式の取得	45	188
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	24,009	96,512
当期変動額合計	478,439	1,122,058
当期末残高	13,187,403	14,309,462

【重要な会計方針】

1 有価証券の評価基準及び評価方法

(1) 子会社株式及び関連会社株式

移動平均法による原価法

(2) その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）

時価のないもの

移動平均法による原価法

2 たな卸資産の評価基準及び評価方法

原材料及び貯蔵品

主として先入先出法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）

仕掛品

個別法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）

3 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産（リース資産を除く）

定率法

ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物（建物付属設備は除く）については、定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物 5～34年

機械及び装置 4～13年

(2) 無形固定資産（リース資産を除く）

自社利用のソフトウェア

社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法

その他

定額法

(3) 長期前払費用

均等償却

(4) リース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース開始日が平成21年2月20日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。

4 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 賞与引当金

従業員に対する賞与の支払いに充てるため、支給見込額に基づき計上しております。

(3) 役員賞与引当金

役員に対する賞与の支払いに充てるため、支給見込額に基づき計上しております。

(4) 投資損失引当金

関係会社への投資に対する損失に備えるため、当該会社の財政状態及び回収可能性を勘案して損失見込額を計上しております。

(5) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、当事業年度末において発生していると認められる額を計上しております。数理計算上の差異は、各期における従業員の平均残存勤務期間以内の一定年数（5年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌期から費用処理しております。

5 収益及び費用の計上基準

売上高及び売上原価の計上基準

当事業年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる機械装置の製造等

工事進行基準（工事の進捗率の見積りは原価比例法）

その他

工事完成基準及び出荷基準

6 その他財務諸表作成のための重要な事項

消費税等

税抜方式によっております。

【会計方針の変更】

（会計上の見積りの変更と区分することが困難な会計方針の変更）

法人税法の改正（「経済社会の構造の変化に対応した税制の構築を図るための所得税法等の一部を改正する法律平成23年12月2日 法律第114号」及び「法人税法施行令の一部を改正する政令 平成23年12月2日 政令第379号」）に伴い、平成24年4月1日以後取得の有形固定資産の減価償却の方法を改正後の法人税法に基づく方法に変更しております。この変更による損益に与える影響は軽微であります。

【表示方法の変更】

（貸借対照表）

前事業年度において、独立掲記していた「流動資産」の「未収消費税等」は、資産の総額の100分の1以下となったため、当事業年度より「その他」に含めて表示しております。この表示方法の変更を反映させるため、前事業年度の財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前事業年度の貸借対照表において、「流動資産」の「未収消費税」に表示していた221,780千円は、「その他」として組み替えております。

（損益計算書）

前事業年度において、独立掲記していた「営業外収益」の「受取賃貸料」は、営業外収益の100分の10以下となったため、当事業年度より、「その他」に含めて表示しております。この表示方法の変更を反映させるため、前事業年度の財務諸表の組み替えを行っております。

この結果、前事業年度の損益計算書において、「営業外収益」の「受取賃貸料」に表示していた20,892千円は、「その他」として組み替えております。

前事業年度において、独立掲記していた「営業外収益」の「作業くず売却益」は、営業外収益の100分の10以下となったため、当事業年度より、「その他」に含めて表示しております。この表示方法の変更を反映させるため、前事業年度の財務諸表の組み替えを行っております。

この結果、前事業年度の損益計算書において、「営業外収益」の「作業くず売却益」に表示していた6,582千円は、「その他」として組み替えております。

【追加情報】

（会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用）

当事業年度の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」（企業会計基準第24号 平成21年12月4日）及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日）を適用しております。

【注記事項】

(貸借対照表関係)

1 関係会社に対する資産

関係会社に対する資産には区分掲記されたもののほか次のものがあります。

	前事業年度 (平成24年2月20日)	当事業年度 (平成25年2月20日)
売掛金	1,438,415千円	1,636,139千円

2 有形固定資産減価償却累計額

	前事業年度 (平成24年2月20日)	当事業年度 (平成25年2月20日)
	2,486,082千円	2,647,210千円

3 土地の再評価に関する法律(平成10年3月31日公布法律第34号)に基づき、事業用の土地の再評価を行い、土地再評価差額金を純資産の部に計上しています。

再評価の方法

土地の再評価に関する法律施行令(平成10年3月31日公布政令第119号)第2条第4号に定める地価税法第16条に規定する地価税の課税価格の計算の基礎となる土地の価額を算定するために国税庁長官が定めて公表した方法により算定した価額に合理的な調整を行う方法により算出

再評価を行った年月日 平成14年2月20日

	前事業年度 (平成24年2月20日)	当事業年度 (平成25年2月20日)
再評価を行った土地の期末における時価と 再評価後の帳簿価額との差額	571,406千円	595,856千円

4 固定資産圧縮積立金は租税特別措置法の規定によるものであります。

(損益計算書関係)

- 1 販売費に属する費用のおおよその割合は前事業年度23%、当事業年度23%、一般管理費に属する費用のおおよその割合は前事業年度77%、当事業年度77%であります。

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成23年 2月21日 至 平成24年 2月20日)	当事業年度 (自 平成24年 2月21日 至 平成25年 2月20日)
役員報酬	119,474千円	127,038千円
給与及び手当	196,654	220,889
賞与引当金繰入額	18,600	30,500
役員賞与引当金繰入額	33,000	40,000
退職給付費用	11,693	12,645
貸倒引当金繰入額	1,000	-
減価償却費	23,287	16,601
研究開発費	78,501	86,731
支払報酬	115,887	141,657
運賃	45,548	83,537
租税公課	46,137	76,992
旅費交通費	49,184	67,409

2 研究開発費の総額

一般管理費に含まれる研究開発費

	前事業年度 (自 平成23年 2月21日 至 平成24年 2月20日)	当事業年度 (自 平成24年 2月21日 至 平成25年 2月20日)
	78,501千円	86,731千円

3 関係会社との取引に係るものが次のとおり含まれております。

	前事業年度 (自 平成23年 2月21日 至 平成24年 2月20日)	当事業年度 (自 平成24年 2月21日 至 平成25年 2月20日)
関係会社への売上高	1,900,023千円	3,974,229千円
関係会社からの受取賃貸料	20,892千円	20,292千円

4 固定資産売却益の内容

	前事業年度 (自 平成23年 2月21日 至 平成24年 2月20日)	当事業年度 (自 平成24年 2月21日 至 平成25年 2月20日)
機械及び装置	2,379千円	25千円
車両運搬具	459	-

5 固定資産除却損の内容

	前事業年度 (自 平成23年 2月21日 至 平成24年 2月20日)	当事業年度 (自 平成24年 2月21日 至 平成25年 2月20日)
建物	- 千円	25千円
機械及び装置	-	335
車両運搬具	76	-
工具、器具及び備品	48	204

(株主資本等変動計算書関係)

前事業年度(自平成23年2月21日至平成24年2月20日)

自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当事業年度期首 (株)	増加(株)	減少(株)	当事業年度末(株)
自己株式 普通株式	632,098	37	-	632,135
合計	632,098	37	-	632,135

(注) 普通株式の自己株式の株式数の増加37株は、単元未満株式の買取りによるものであります。

当事業年度(自平成24年2月21日至平成25年2月20日)

自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当事業年度期首 (株)	増加(株)	減少(株)	当事業年度末(株)
自己株式 普通株式	632,135	75	-	632,210
合計	632,135	75	-	632,210

(注) 普通株式の自己株式の株式数の増加75株は、単元未満株式の買取りによるものであります。

(リース取引関係)

(借主側)

1. ファイナンス・リース取引

所有権移転外ファイナンス・リース取引

リース資産の内容

有形固定資産

事業における生産設備(機械及び装置)であります。

リース資産の減価償却の方法

重要な会計方針「3. 固定資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が、平成21年2月20日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっており、その内容は次のとおりであります。

(1) リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額及び期末残高相当額

(単位：千円)

	前事業年度(平成24年2月20日)		
	取得価額相当額	減価償却累計額相当額	期末残高相当額
機械及び装置	436,562	349,511	87,050
その他	19,919	11,747	8,171
合計	456,481	361,258	95,222

(単位：千円)

	当事業年度(平成25年2月20日)		
	取得価額相当額	減価償却累計額相当額	期末残高相当額
機械及び装置	217,003	175,393	41,609
その他	10,046	5,811	4,234
合計	227,049	181,205	45,844

(2) 未経過リース料期末残高相当額等

(単位：千円)

	前事業年度 (平成24年2月20日)	当事業年度 (平成25年2月20日)
未経過リース料期末残高相当額		
1年内	52,588	28,321
1年超	47,388	20,175
合計	99,977	48,496

(3) 支払リース料、減価償却費相当額及び支払利息相当額

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成23年 2月21日 至 平成24年 2月20日)	当事業年度 (自 平成24年 2月21日 至 平成25年 2月20日)
支払リース料	76,804	49,327
減価償却費相当額	70,340	45,612
支払利息相当額	3,150	1,720

(4) 減価償却費相当額及び利息相当額の算定方法

減価償却費相当額の算定方法

- ・リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

利息相当額の算定方法

- ・リース料総額とリース物件の取得価額相当額の差額を利息相当額とし、各期への配分方法については、利息法によっております。

(減損損失について)

リース資産に配分された減損損失はありません。

(有価証券関係)

子会社株式及び関連会社株式(当事業年度の貸借対照表計上額は子会社株式202,141千円、前事業年度の貸借対照表計上額は子会社株式202,141千円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (平成24年2月20日)	当事業年度 (平成25年2月20日)
繰延税金資産		
長期未払金	110,206千円	110,206千円
売上原価	39,853	88,714
未払事業税	3,178	62,771
賞与引当金	41,583	56,558
退職給付引当金	39,759	46,656
研究開発費	9,316	41,647
関係会社株式	33,085	33,085
投資有価証券	29,371	29,371
未払金	11,777	14,150
研究開発資産	24,967	8,995
投資損失引当金	25,340	-
クレーム処理損失	10,122	-
その他	6,552	7,038
繰延税金資産小計	385,116	499,198
評価性引当額	91,318	65,978
繰延税金資産合計	293,797	433,219
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額金	98,195	141,571
固定資産圧縮積立金	51,879	51,879
繰延税金負債合計	150,074	193,450
繰延税金資産の純額	143,723	239,769

(注) 繰延税金資産の純額は、貸借対照表の以下の項目に含まれております。

	前事業年度 (平成24年2月20日)	当事業年度 (平成25年2月20日)
流動資産 - 繰延税金資産	116,803千円	263,861千円
固定資産 - 繰延税金資産	26,919	-
固定負債 - 繰延税金負債	-	24,092

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 (平成24年2月20日)	当事業年度 (平成25年2月20日)
法定実効税率	40.5%	40.5%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	2.5	1.4
住民税均等割	0.2	0.1
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	0.1	0.1
過年度法人税等	2.2	-
税率変更による影響額	0.6	-
評価性引当額の増減	4.0	1.1
その他	0.8	0.8
税効果会計適用後の法人税等の負担率	42.7	41.6

(資産除去債務関係)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

項目	前事業年度 (自平成23年2月21日 至平成24年2月20日)	当事業年度 (自平成24年2月21日 至平成25年2月20日)
1株当たり純資産額	2,007.87円	2,178.73円
1株当たり当期純利益金額	99.20円	196.18円

(注) 1. 潜在株式調整後1株あたり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していません。

2. 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前事業年度 (平成24年2月20日)	当事業年度 (平成25年2月20日)
貸借対照表の純資産の部の合計額(千円)	13,187,403	14,309,462
普通株式に係る純資産額(千円)	13,187,403	14,309,462
普通株式の発行済株式数(株)	7,200,000	7,200,000
普通株式の自己株式数(株)	632,135	632,210
1株当たり純資産額の算定に用いられた普通株式の数(株)	6,567,865	6,567,790

3. 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前事業年度 (自平成23年2月21日 至平成24年2月20日)	当事業年度 (自平成24年2月21日 至平成25年2月20日)
損益計算書上の当期純利益(千円)	651,513	1,288,448
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る当期純利益(千円)	651,513	1,288,448
普通株式の期中平均株式数(株)	6,567,877	6,567,834

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【附属明細表】
【有価証券明細表】
【株式】

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額(千円)
(投資有価証券)		
その他有価証券		
The Procter & Gamble Company	24,000	171,450
ユニ・チャーム株式会社	30,000	164,700
テンブルトン・ドラゴン・ファンド・インク	40,000	107,990
株式会社ミューチュアル	102,500	47,765
株式会社ワキタ	52,000	41,184
因幡電機産業株式会社	10,000	28,500
小林製薬	4,665	20,716
丸紅株式会社	29,000	20,010
杉本商事株式会社	23,000	18,400
神島化学工業株式会社	55,000	14,080
その他(10銘柄)	205,080	76,434
計	575,245	711,231

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (千円)	当期末残高 (千円)	当期末減価償却累計額又は償却累計額 (千円)	当期償却額 (千円)	差引当期末残高 (千円)
有形固定資産							
建物	2,475,118	8,975	6,665	2,477,428	1,746,492	63,556	730,935
構築物	89,097	-	-	89,097	80,669	1,261	8,428
機械及び装置	627,075	10,877	3,995	633,957	462,367	54,100	171,590
車両運搬具	71,857	16,725	-	88,583	62,491	14,253	26,091
工具、器具及び備品	288,660	70,959	1,566	358,053	279,201	30,095	78,852
土地	3,388,285	-	-	3,388,285	-	-	3,388,285
リース資産	64,394	-	-	64,394	15,989	9,199	48,405
建設仮勘定	71,298	282,554	319,128	34,725	-	-	34,725
有形固定資産計	7,075,788	390,091	331,356	7,134,524	2,647,210	172,467	4,487,313
無形固定資産							
ソフトウェア	98,021	194,651	-	292,673	103,705	18,629	188,967
電話加入権	683	-	-	683	-	-	683
その他	3,392	-	-	3,392	2,673	154	719
無形固定資産計	102,097	194,651	-	296,749	106,379	18,784	190,370
長期前払費用	10,414	253	2,613	8,055	-	-	8,055
繰延資産							
	-	-	-	-	-	-	-
繰延資産計	-	-	-	-	-	-	-

- (注) 1. 当期増減額のうち主なものは、建設仮勘定のPDM/BOM管理システムソフト175,085千円であります。
2. 長期前払費用は自動車リサイクル料及び保険料の期間配分に係るものであり、減価償却と性格が異なるため、当期末減価償却累計額及び当期償却額には含めておりません。

【引当金明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (目的使用) (千円)	当期減少額 (その他) (千円)	当期末残高 (千円)
貸倒引当金	2,400	50	-	2,400	50
賞与引当金	102,700	148,800	102,700	-	148,800
役員賞与引当金	37,000	40,000	37,000	-	40,000
投資損失引当金	71,100	-	-	71,100	-

- (注) 1. 貸倒引当金の当期減少額(その他)は、一般債権の貸倒実績率による洗替額であります。
2. 投資損失引当金の当期減少額(その他)は、関係会社の財政状態が回復したことによる戻入額であります。

(2) 【主な資産及び負債の内容】

資産の部

(1) 現金及び預金

区分	金額(千円)
現金	1,255
預金	
当座預金	984,498
普通預金	1,730
積立定期預金	105,000
定期預金	2,851,985
その他	396,804
計	4,340,020
合計	4,341,275

(2) 受取手形

イ 相手先別内訳

相手先	金額(千円)
株式会社リブドゥコーポレーション	31,900
白十字株式会社	17,497
ジェクス株式会社	4,672
ユニ・チャームプロダクツ株式会社	2,988
株式会社コーチョー	724
合計	57,784

ロ 期日別内訳

期日別	金額(千円)
平成25年3月20日迄	12,596
4月 "	15,132
5月 "	15,707
6月 "	13,508
7月 "	838
合計	57,784

(3) 売掛金

イ 相手先別内訳

相手先	金額(千円)
ユニ・チャーム株式会社	1,389,070
ZUIKO INC.	1,334,331
花王株式会社	1,100,808
株式会社守谷商会	688,418
王子ネピア株式会社	641,555
その他	2,206,541
合計	7,360,725

ロ 売掛金の発生及び回収並びに滞留状況

当期首残高 (千円)	当期発生高 (千円)	預り消費税 等額 (千円)	当期回収高 (千円)	当期末残高 (千円)	回収率(%) (D) (A) + (B) + (C)	滞留期間(日) $\frac{(A) + (E)}{2} \div \frac{(B) + (C)}{366}$
(A)	(B)	(C)	(D)	(E)		
6,617,316	17,811,067	523,143	17,590,801	7,360,725	70.5	140

(4) 原材料及び貯蔵品

区分	金額(千円)
原材料	
鋳物	92,618
素材	59,442
電機部品	57,459
ベアリング	41,833
特殊銅加工品	39,436
モーター	31,277
プーリー	22,414
小物部品	19,591
エア-機器	16,536
カップリング	13,046
その他	24,304
合計	417,960

(5) 仕掛品

区分	金額(千円)
小児用紙オムツ製造機械関係	1,378,815
大人用紙オムツ製造機械関係	376,724
生理用ナプキン製造機械関係	135,555
その他	190,256
合計	2,081,351

(6) 関係会社出資金

相手先	金額(千円)
瑞光(上海)電気設備有限公司	1,287,476
ZUIKO INDUSTRIA DE MAQUINAS LTDA.	469,784
合計	1,757,261

負債の部

(1) 支払手形

イ 相手先別内訳

相手先	金額(千円)
ノードソン株式会社	308,522
オリオン機械工業株式会社	276,378
株式会社中央電子	166,046
株式会社佐藤製作所	110,461
内外電機株式会社	106,147
その他	2,638,239
合計	3,605,795

ロ 期日別内訳

期日別	金額(千円)
平成25年3月20日迄	1,098,678
4月 "	1,014,409
5月 "	907,955
6月 "	584,753
合計	3,605,795

(2) 買掛金

相手先	金額(千円)
ノードソン株式会社	143,180
株式会社中央電子	97,033
株式会社たけびし	49,223
有限会社エンジニアリングコダマ	48,873
内外電機株式会社	39,555
その他	885,025
合計	1,262,891

(3) 前受金

相手先	金額(千円)
大王製紙株式会社	541,674
DSG(MALAYSIA) SDN BHD	265,632
株式会社守谷商会	93,261
花王株式会社	92,610
上海花王有限公司	91,548
その他	223,518
合計	1,308,243

(3) 【その他】

該当事項はありません。

第6【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	2月21日から2月20日まで
定時株主総会	5月中
基準日	2月20日
剰余金の配当の基準日	2月20日、8月20日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り	
取扱場所	(特別口座) 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
取次所 買取手数料	株式の売買の委託に係る手数料相当額として別途定める金額
公告掲載方法	電子公告により行う。ただし事故その他のやむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行う。 公告掲載URL http://www.zuiko.co.jp/
株主に対する特典	該当事項はありません。

(注) 当会社の株主は、その有する単元未満株式について、次に掲げる権利以外の権利を行使することができない。
 会社法第189条第2項各号に掲げる権利
 取得請求権付株式の取得を請求する権利
 株主の有する株式数に応じて募集株式の割当て及び募集新株予約権の割当てを受ける権利

第7【提出会社の参考情報】

1【提出会社の親会社等の情報】

当社には親会社等はありません。

2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書

事業年度(第49期)(自平成23年2月21日至平成24年2月20日)平成24年5月17日に近畿財務局長に提出

(2) 内部統制報告書並びにその添付書類

平成24年5月17日近畿財務局長に提出

(3) 四半期報告書及び確認書

(第50期第1四半期)(自平成24年2月21日至平成24年5月20日)平成24年7月4日に近畿財務局長に提出

(第50期第2四半期)(自平成24年5月21日至平成24年8月20日)平成24年10月4日に近畿財務局長に提出

(第50期第3四半期)(自平成24年8月21日至平成24年11月20日)平成24年12月28日に近畿財務局長に提出

(4) 臨時報告書

平成24年5月18日近畿財務局長に提出

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2(株主総会における議決権行使の結果)に基づく臨時報告書であります。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成25年 5月15日

株式会社 瑞光
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 小川 佳男 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 大谷 智英 印

<財務諸表監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社瑞光の平成24年2月21日から平成25年2月20日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社瑞光及び連結子会社の平成25年2月20日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

< 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、株式会社瑞光の平成25年2月20日現在の内部統制報告書について監査を行った。

内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、株式会社瑞光が平成25年2月20日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

-
1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。
 2. 連結財務諸表の範囲にはX B R Lデータ自体は含まれていません。

独立監査人の監査報告書

平成25年 5月15日

株式会社 瑞光
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 小川 佳男 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 大谷 智英 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社瑞光の平成24年2月21日から平成25年2月20日までの第50期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社瑞光の平成25年2月20日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

-
1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。
 2. 財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれていません。